

# Arcserve® Unified Data Protection アプライアンス ユーザガイド

バージョン 6.0

arcserve®

## リーガル ノーティス

組み込みのヘルプシステムおよび電子的に配布される資料も含めたこのドキュメント(以下「本書」)はお客様への情報提供のみを目的としたもので、Arcserve により随時、変更または撤回されることがあります。本ドキュメントは、Arcserve が知的財産権を有する機密情報であり、Arcserve の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。

本ドキュメントで言及されているソフトウェア製品のライセンスを受けたユーザは、社内でユーザおよび従業員が使用する場合に限り、当該ソフトウェアに関連する本ドキュメントのコピーを妥当な部数だけ作成できます。ただし、Arcserve のすべての著作権表示およびその説明を当該複製に添付することを条件とします。

本書を印刷するかまたはコピーを作成する上記の権利は、当該ソフトウェアのライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは Arcserve に本書の全部または一部を複製したコピーを Arcserve に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

準拠法により認められる限り、ARCserve は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、お客様の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本システムの使用に起因して、逸失利益、投資損失、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等、いかなる損害(直接損害か間接損害かを問いません)が発生しても、ARCserve はお客様または第三者に対し責任を負いません。ARCserve がかかる損害の発生の可能性について事前に明示に通告されていた場合も同様とします。

本書に記載されたソフトウェア製品は、該当するライセンス契約書に従い使用されるものであり、当該ライセンス契約書はこの通知の条件によっていかなる変更も行われません。

本書の制作者は Arcserve です。

「制限された権利」のもとでの提供: アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1) 及び (2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3) または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

© 2016 Arcserve (その関連会社および子会社を含む)。All rights reserved. サードパーティの商標または著作権は各所有者の財産です。

## Arcserve サポート へのお問い合わせ

Arcserve サポート チームは、技術的な問題を解決する際に役立つ豊富なリソースセットを提供し、重要な製品情報にも容易にアクセスできます。

### [テクニカル サポート へのお問い合わせ](#)

Arcserve サポート:

- 弊社の専門家が社内で共有しているのと同じ情報ライブラリに直接アクセス Arcserve サポート できます。このサイトから、弊社のナレッジ ベース( KB)ドキュメントにアクセスできます。ここから、重要な問題やよくあるトラブルについて、製品関連 KB 技術情報を簡単に検索し、検証済みのソリューションを見つけることができます。
- ユーザはライブ チャット リンクを使用して、チームと瞬時にリアルタイムで会話を始めることが Arcserve サポート できます。ライブ チャットでは、製品にアクセスしたまま、懸念事項や質問に対する回答を即座に得ることができます。
- グローバルユーザコミュニティでは、Arcserve 質疑応答、ヒントの共有、ベストプラクティスに関する議論、および同業者との対話に参加できます。
- サポート チケットを開くことができます。オンラインでサポート チケットを開くと、質問の対象製品を専門とする担当者から直接、コールバックを受けられます。
- また、使用している製品に適したその他の有用なリソースにアクセス Arcserve できます。

## Arcserve UDP アプライアンスの返品ポリシー

有効な RMA ( 返品認定 ) 番号は、製品を Arcserve に返却するために必要です。RMA 番号を取得するには、Arcserve テクニカルサポート部門にお問い合わせください。お客様の担当者の連絡先情報については、[arcserve.com/support](https://arcserve.com/support) を参照してください。サポート チームから RMA データの送信先が通知される場合があります。

返品には、10% の返品手数料がかかります。以下の場合には例外です。1) 注文が間違っ て履行された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。2) 欠陥のあるアイテムが 30 日以内に返品された場合、Arcserve は RMA を受け入れ、全額を返金します。3) ハードウェアに技術的な問題がある場合、解決のための適切な期間を経過した後もサポートによって解決できなければ、Arcserve は RMA を受け入れ、同等の価値のあるハードウェアの交換を提供します。

RMA リクエストに必要な情報:

- 製品のシリアル番号 ( アプライアンスの背面に記載があります )
- Arcserve 注文番号
- パートナーの連絡先名
- パートナーの電話番号
- パートナーの電子メールアドレス
- お客様の連絡先名 ( 可能な場合 )
- 電話番号 ( 可能な場合 )
- 電子メールアドレス ( 可能な場合 )
- 問題の説明とすでに実行されたトラブルシューティングの説明。
- 要求された配送サービスおよび出荷先住所。

RMA 番号は、パッケージの外側に明確に記されている必要があります。すべての RMA は、適切な梱包で出荷される必要があります。すべての RMA は、荷物のトラックングおよび保証を提供する信頼できる運送業者を使用して出荷する必要があります。出荷時の破損または RMA の損失はお客様の責任になります。

---

# コンテンツ

---

<b>第 1 章: Arcserve UDP アプライアンスについて</b> .....	<b>9</b>
概要 .....	10
Arcserve UDP エージェント( Linux) .....	12
Arcserve Backup .....	13
Arcserve Backup r17 のインストール .....	14
安全に関する注意事項 .....	16
同梱されている内容 .....	17
Arcserve Replication/High Availability ( Arcserve RHA) .....	17
箱に含まれていない項目 .....	18
利用可能なモデル .....	19
モデル 7100 - 7300v .....	19
モデル 7400 - 7600v .....	22
モデル 8100-8400 .....	25
コントロールおよびインジケータ .....	27
前面パネル 7100-7300v .....	28
前面パネル 7400-7600v .....	31
前面パネル 8100-8200 .....	33
前面パネル 8300-8400 .....	36
背面パネル 7100-7300v .....	38
背面パネル 7400-7600v .....	40
背面パネル 8100-8200 .....	42
背面パネル 8300-8400 .....	44
アプライアンスが使用するポート .....	46
製品ドキュメント .....	51
言語サポート .....	52
<b>第 2 章: Arcserve UDP アプライアンスの設置</b> .....	<b>53</b>
8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法 .....	54
8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法 .....	55
<b>第 3 章: アプライアンス上の Arcserve UDP のアップグレード</b> .....	<b>57</b>
アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法 .....	58
Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法 .....	60
Arcserve UDP アプライアンス上のアップグレードシーケンス .....	61

---

Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード	62
Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード	63
複数の Arcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順	64
Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード	65
Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード	66
UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス	67
アプライアンスのアップグレードに関する既知の問題	67
<b>第 4 章: Arcserve UDP アプライアンスの設定</b>	<b>70</b>
UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法	71
UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要	76
Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法	77
プランへのノードの追加の詳細	87
ホスト名/IP アドレスによるノードの追加	88
Active Directory によるノードの追加	90
vCenter/ESX ノードの追加	92
Hyper-V ノードの追加	94
NIC チーミングを設定する方法	96
ゲートウェイとしての UDP アプライアンスの設定	98
環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用	99
ブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用	101
Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP の登録	104
<b>第 5 章: バックアップ プランの作成</b>	<b>106</b>
Linux ノード用のバックアッププランの作成	107
テープ デバイスへのバックアッププランの作成	108
アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成	109
<b>第 6 章: Arcserve UDP アプライアンスの修復</b>	<b>110</b>
ハードドライブの取り外しおよび交換	111
<b>第 7 章: 安全に関する注意事項</b>	<b>116</b>
一般的な安全に関する注意事項	117
電気に関する安全のための注意事項	119
FCC コンプライアンス	120
静電気放電(ESD)に関する注意事項	121
<b>第 8 章: IPMI パスワードの変更</b>	<b>122</b>
IPMI パスワードを変更する方法	123

---

---

<b>第 9 章:トラブルシューティング</b> .....	<b>128</b>
Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない .....	129
別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードがレ ポートされる .....	130
Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを取得できない .....	132
アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン .....	133
<b>第 10 章: 使用条件</b> .....	<b>134</b>
putty .....	135





---

## 第 1 章: Arcserve UDP アプライアンスについて

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">概要</a>	10
<a href="#">安全に関する注意事項</a>	16
<a href="#">同梱されている内容</a>	17
<a href="#">箱に含まれていない項目</a>	18
<a href="#">利用可能なモデル</a>	19
<a href="#">コントロールおよびインジケータ</a>	27
<a href="#">アプライアンスが使用するポート</a>	46
<a href="#">製品ドキュメント</a>	51
<a href="#">言語サポート</a>	52

## 概要

各 Arcserve UDP アプライアンスは、自己完結型の「set and forget( 設定後は作業不要) 」のバックアップ/復旧ソリューションです。Arcserve UDP アプライアンスは、アシュアード リカバリ™を搭載した最初の完全で最もコスト効率の良い保護アプライアンスです。クラウド ネイティブ機能によって構築されており、その極めて容易な導入とユーザビリティが、一連の幅広い機能( ソースベースのグローバル デデュープリケーション、マルチサイト レプリケーション、テープのサポート、自動化されたデータ復旧機能などの) と組み合わせられています。Arcserve UDP アプライアンスは、運用において優れた敏捷性と効率性を実現し、障害復旧作業を大幅に簡略化します。

Arcserve UDP アプライアンスは、最新のハードウェアにプリインストールされている主要な Arcserve Unified Data Protection ソフトウェアと完全に統合されています。アプライアンスは、すべてのユーザに対して、完全な統合データ保護ソリューションを提供し、現在の需要を満たすだけでなく、絶え間なく変化するバックアップ、アーカイブ、惨事復旧( DR) の今後の要件にも対応できます。

以下のソフトウェアは、Arcserve UDP アプライアンスにプリインストールされています。

- Arcserve UDP
- Arcserve UDP エージェント( Linux)
- Arcserve Backup

Arcserve UDP の各アプライアンスには、3年間のハードウェア保証が付いています。この保証の詳細については、[arcserve.com/udp-appliance-warranty](https://arcserve.com/udp-appliance-warranty) を参照してください。

### Arcserve Unified Data Protection

Arcserve UDP ソフトウェアは、複雑な IT 環境を保護する包括的なソリューションです。このソリューションは、Windows、Linux、VMware ESX Server、Microsoft Hyper-V Server など、さまざまな種類のノードに存在するデータを保護します。ローカルマシンまたは復旧ポイント サーバのいずれかへデータをバックアップできます。復旧ポイント サーバは複数のソースからのバックアップが保存される中央サーバです。

Arcserve UDP には、以下の機能が用意されています。

- 復旧ポイント サーバ上のデデュープリケーション/非デデュープリケーション データストアにデータをバックアップ
- Arcserve Backup ( アプライアンスに含まれています) との統合を使用して、復旧ポイントをテープにバックアップ

- バックアップ データから仮想スタンバイ マシンを作成
- バックアップ データを復旧ポイント サーバおよびリモート復旧ポイント サーバにレプリケート
- バックアップ データをリストアし、ベアメタル復旧 (BMR) を実行
- 選択したデータ バックアップ ファイルをセカンダリバックアップ先へコピー
- 環境内の重要なサーバに対して Arcserve Full System High Availability (HA) を設定および管理

Arcserve UDP は、あるサーバから別の復旧ポイント サーバに復旧ポイントとして保存されるバックアップ データをレプリケートします。バックアップ データから、ソース ノードで不具合が発生したときにスタンバイ マシンとして機能できる仮想マシンを作成することもできます。スタンバイ仮想マシンを作成するには、復旧ポイントを VMware ESX または Microsoft Hyper-V 仮想マシン形式に変換します。

Arcserve UDP ソリューションは、Arcserve High Availability との統合を提供します。Arcserve High Availability でシナリオを作成した後、これらのシナリオを管理およびモニタし、デスティネーション マシンの追加 や削除のような操作を実行できます。

## Arcserve UDP エージェント (Linux)

Arcserve UDP エージェント (Linux) は、Linux オペレーティングシステム用に設計されたディスクベースのバックアップ製品です。ビジネス上の重要な情報を保護および復旧する際に、高速で簡単に使用できる、信頼性の高い方法を提供します。Arcserve UDP エージェント (Linux) は、ノード上の変更をブロックレベルでトラッキングし、変更されたブロックのみを増分プロセスでバックアップします。これにより、バックアップの実行頻度を増やすことができ、増分バックアップのサイズ(およびバックアップ時間)が削減されるため、これまでよりも最新のバックアップを利用できるようになります。また、Arcserve UDP エージェント (Linux) を使用して、ファイルやフォルダのリストア、および単一のバックアップからのベアメタル復旧 (BMR) を実行することもできます。バックアップ情報は、バックアップソースノードで、NFS (Network File System) 共有または CIFS (Common Internet File System) 共有に保存できます。

Arcserve UDP エージェント (Linux) の最新のバージョンは、アプライアンス内の仮想マシンにプリインストールされます。この仮想マシンが Linux バックアップ サーバになります。Arcserve UDP エージェント (Linux) は、UDP アプライアンス内のデフォルトのインストールパスにインストールされます。

コンソールを開くと、Linux バックアップ サーバはすでにコンソールに追加されています。Linux バックアップ サーバのネイティブ ホスト名は *Linux-BackupSvr* です。ただし、コンソールでは、Linux バックアップ サーバでは、ポート 8018 環境設定を使用してアプライアンスのホスト名を適用します。Linux バックアップ サーバは、ポートの方向制御を通じて NAT の背後で動作します。Linux バックアップ サーバは、UDP アプライアンスで通信およびデータの転送にポート 8018 を使用します。

**注:** バックアッププランの作成および Linux マシンのリストアに関する詳細については、「Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド」を参照してください。

Linux バックアップ サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

ユーザ名 - root

パスワード - Arcserve

**注:** デフォルトのパスワードは変更することをお勧めします。

## Arcserve Backup

Arcserve Backup は、多種多様な環境のビジネスニーズに対応する高性能なデータ保護ソリューションです。本製品は、柔軟なバックアップとリストア、容易な管理、幅広いデバイス互換性、そして信頼性を提供します。また、個々のストレージ要件に応じてデータ保護戦略をカスタマイズできるため、データストレージの機能を最大限に活用できます。さらに、柔軟なユーザインターフェースにより詳細な設定が可能で、あらゆるユーザがその技術的知識のレベルにかかわらず、さまざまなエージェント機能や各種オプションを展開して保守できます。

Arcserve Backup には分散環境向けの包括的なデータ保護機能があり、ウイルスフリーのバックアップおよびリストア操作を実現します。多種多様なオプションとエージェントにより、企業全体でのデータ保護機能が強化され、さまざまな拡張機能 (オンラインホットバックアップや、アプリケーションおよびデータファイルのリストア、拡張デバイスおよびメディアの管理、惨事復旧など) が使用可能になります。

UDP アプライアンスには、テープへのバックアップを実行するために Arcserve Backup との統合機能が含まれています。InstallASBU.bat を実行すると、Arcserve Backup がコンピュータ上の "C:\Program Files (x86)\Arcserve" にインストールされます。UDP アプライアンス内にインストールされるコンポーネントを使用して、Arcserve UDP のデスティネーションをテープにバックアップできます。

Arcserve Web サイトから Arcserve Backup のフルインストールパッケージをダウンロードして、他のコンポーネントをインストールできます。詳細については、Arcserve Backup オンライン r17 の[オンラインドキュメント](#)を参照してください。

Arcserve Backup サーバでは、以下のデフォルトのログイン情報が使用されます。

- ユーザ名 -- caroot
- パスワード -- Arcserve

## Arcserve Backup r17 のインストール

Arcserve Backup r17 は、アプライアンスに事前インストールされていません。デスクトップ上にある “InstallASBU.bat” というスクリプトを使用して Arcserve Backup r17 をインストールできます。

以下の手順に従います。

1. デスクトップから、InstallASBU.bat を選択して起動します。

注: 英語以外の Windows システムから .bat ファイルを起動している場合、以下の画面が表示されます。Arcserve Backup r17 をインストールする言語を選択するか、それ以外の場合は手順 2 に進みます。

```
Checking Arcserve Backup installation environment ...  
  
Select language for Arcserve Backup Installation:  
  1. Japanese (default)  
  2. English  
Your choice [1]:  
You select "Japanese". Are you sure? [y/n]:y
```

2. 管理者パスワードを入力すると、Arcserve Backup r17 のインストールに使用できるスクリプトが生成されます。

```
Checking Arcserve Backup installation environment ...  
  
Select language for Arcserve Backup Installation:  
  1. Japanese (default)  
  2. English  
Your choice [1]:  
You select "Japanese". Are you sure? [y/n]:y  
  
Enter Password for Administrator: *****  
  
Starting to install Arcserve Backup r17 (Japanese).  
This may take up to 25 minutes.  
Please do not close this window or shutdown the appliance.  
  
Installing Arcserve Backup...  
Completed.  
  
Installing Arcserve Backup Patch Manager...  
Completed.  
  
Updating configurations of the Arcserve Backup server...  
  
Arcserve Backup r17 is installed successfully.  
UserName: caroot  
Password: Arcserve
```

インストールが完了したら、Arcserve Backup のアイコンがデスクトップに追加されます。以下の認証情報で Arcserve Backup にログインできます。

- ユーザ名 = caroot
- パスワード = Arcserve

## 安全に関する注意事項

安全のため、Arcserve UDP アプライアンスに対して開梱、接続、設置、電源投入などの操作を行う場合は、すべての手順を事前に確認し、指示に従ってください。安全に関する注意事項に従わないと、人身傷害、機器の破損、または誤動作などが発生する可能性があります。

安全に関する注意事項の詳細については、「[安全に関する注意事項\(付録\)](#)」を参照してください。



## 同梱されている内容

箱には以下の項目が含まれています。

- Arcserve UDP アプライアンス( シリアル番号 のラベルはアプライアンスの背面にあります)
- 電源ケーブル: 1
- ネットワークケーブル: 赤 1 本、青 1 本( 3 フィートの長さ)
- IPMI ポート ケーブル: 1 本( 7 フィートの長さ)
- レール/ラック マウント キット - 2 つの外側レール( クイック インストール) 、2 つの内側レール延長、3 つのレールアダプタ( 標準のレール マウントのみ) 、付属ハードウェア( 必要な場合) が含まれています。
- Arcserve フェースプレート
- Microsoft クライアント アクセスライセンス

注: アプライアンスに同梱されている内容をチェックして、足りない項目がないかどうか、および破損がないことを確認します。足りないアイテムまたは破損がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください ( <https://www.arcserve.com/support> ) 。

## Arcserve Replication/High Availability ( Arcserve RHA)

Arcserve RHA は、非同期リアルタイムレプリケーション、自動化されたスイッチオーバーおよびスイッチバックに基づくソリューションです。Windows サーバ上の仮想環境にコスト効率の高いビジネス継続性を提供します。

Arcserve RHA は、データをローカルサーバまたはリモートサーバにレプリケートできるため、サーバのクラッシュやサイトに惨事が発生した場合のデータの回復をサポートします。ハイアベイラビリティのライセンスを所有している場合、ユーザをレプリカサーバに手動または自動で切り替えることができます。

Arcserve [Web サイト](#) から Arcserve RHA のフルインストールパッケージをダウンロードして、すべてのコンポーネントをインストールできます。詳細については、Arcserve RHA の[オンラインドキュメント](#)を参照してください。

## 箱に含まれていない項目

以下の項目は、箱に含まれておらず、アプライアンスの設置および設定に必要な場合があります。

- モニタ
- キーボード
- 外部ストレージ デバイス( 必要な場合)

## 利用可能なモデル

Arcserve UDP 7000 シリーズおよび 8000 シリーズ アプライアンスは、お客様のさまざまなニーズを満たすように設計された多種多様なモデルで提供されています。

- [モデル 7100 - 7300v](#)
- [モデル 7400 - 7600v](#)
- [モデル 8100 - 8400](#)

## モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7100 - 7300v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様					
アプライアンス モデル	7100	7200V	7200V	7300	7300V
<b>バックアップストレージ容量</b>					
Raw ストレージ容量 *	3 TB	6 TB	6 TB	9 TB	9 TB
使用可能なバックアップ容量 **	2.8 TB	5.8 TB	5.8 TB	8.8 TB	8.8 TB
保護されている(ソースデータ) 容量 ***	最大 8 TB	最大 17 TB	最大 17 TB	最大 26 TB	最大 26 TB
<b>標準機能</b>					
統合管理コンソール、グローバルデデュープリケーション、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレスバックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。					
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	N/A	最大 3 つの VM	N/A	最大 3 つの VM
<b>保証および技術的仕様</b>					
フルシステム Depot 保証	3 年間				

物理的なサイズ (H x W x D インチ)	1.7" x 17.2" x 25.6" ( 1U - 19" ラックマウント レールを提供)				
リモート管理および ネットワーク インター フェース ポート	1 x IPMI & 2 x 1 GbE ( RJ45)				
ハードディスクの種類 および RAID 構成	4 x 1 TB SAS ( RAID 5)	4 x 2 TB SAS ( RAID 5)	4 x 2 TB SAS ( RAID 5)	4 x 3 TB SAS ( RAID 5)	4 x 3 TB SAS ( RAID 5)
外部テープ バックアップ 接続( SAS、 SATA、FC)	1 x PASS				
システム RAM 合計	16 GB	16 GB	32 GB	32 GB	48 GB
SSD ドライブ ( デデュプリ ケーション ハッシュテ ブル用)	120 GB SSD	120 GB SSD	120 GB SSD	240 GB SSD	240 GB SSD
最大重量 ( lbs)	41 lbs				
電源 ( 単一または冗長)	1 x 600W				
消費電力 ( アイドル/ ロード/ス タートアップ 時のワット)	93/116/143	122/164/143	125/167/145	125/167/145	129/188/152
AC 電圧お よび周波数 範囲	100 - 240v				
アンペア定 格	7.5 アンペア( 最大)				
*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト ** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイVMのサ					

イズの分だけ少なくなります。

\*\*\* 一般的な 3:1 のデデュプリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。

## モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP アプライアンス モデル 7400 - 7600v

Arcserve UDP 7000 シリーズ アプライアンスの仕様						
アプライアンス モデル	7400	7400V	7500	7500V	7600	7600V
<b>バックアップストレージ容量</b>						
Raw ストレージ容量*	16 TB	16 TB	20 TB	20 TB	30 TB	30 TB
使用可能なバックアップ容量**	15.8 TB	15.8 TB	19.8 TB	19.8 TB	29.8 TB	29.8 TB
保護されている (ソースデータ) 容量***	最大 46 TB	最大 46 TB	最大 58 TB	最大 58 TB	最大 90 TB	最大 90 TB
<b>標準機能</b>						
統合管理コンソール、グローバルデデュプリケーション、ブロックレベルの無限増分バックアップ、圧縮、暗号化、WAN最適化レプリケーション、拡張仮想化のサポート、エージェントレスバックアップ、リモート仮想スタンバイ、テープのサポート、アプリケーション整合性のあるバックアップ、詳細リストア、統合レポート、ダッシュボード。						
アプライアンスの仮想スタンバイ	N/A	最大 6 つの VM	N/A	最大 9 つの VM	N/A	最大 12 つの VM
<b>保証および技術的仕様</b>						
フルシステム Depot 保証	3 年間					
物理的なサイズ (H x W x D インチ)	3.5" x 17.2" x 25.6" ( 2U - 19" ラック マウント レールを提供)					
リモート管理およびネットワーク	1 x IPMI & 2 x 1 GbE ( RJ45) および 4 x 1GbE ( RJ45) 。 2 x 10 Gb ( オプション)					

クインター フェース ポート						
ハードディ スクの種類 および RAID 構成	10 x 2 TB SAS ( RAID 6)	10 x 2 TB SAS ( RAID 6)	12 x 2 TB SAS ( RAID 6)	12 x 2 TB SAS ( RAID 6)	12 x 3 TB SAS ( RAID 6)	12 x 3 TB SAS ( RAID 6)
外部テー プバック アップ接続 ( SAS、 SATA、 FC)	1 x PASS					
システム RAM 合計	64 GB	96 GB	64 GB	96 GB	128 GB	192 GB
SSDドライ ブ ( デデューリ ケーション ハッシュ テーブル 用)	240 GB SSD	240 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD	480 GB SSD
最大重量 ( lbs)	52 lbs					
電源 ( 単一また は冗長)	2 x 920w					
消費電力 ( アイドル/ ロード/ス タートアップ 時のワッ ト)	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	208/257/ 358	240/296/ 369	240/296/ 369
AC 電圧お よび周波 数範囲	100 - 240v					
アンペア定 格	11 アンペア( 最大)					
<p>*1 TB = 1,000,000,000,000 バイト</p> <p>** "V"モデルでは、バックアップに使用可能な容量は、仮想スタンバイVMのサイズの分だけ少なくなります。</p> <p>*** 一般的な 3:1 のデデューリケーションおよび圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、スケジュールなどに基づ</p>						

いて、大幅に変わる可能性があります。



## モデル 8100-8400

Arcserve UDP アプライアンス モデル 8100 - 8400

Arcserve UDP 8000 シリーズ アプライアンスの仕様				
アプライアンスモデル	UDP 8100	UDP 8200	UDP 8300	UDP 8400
ソースバックアップ*	12TB-18TB	24TB-36TB	48TB-128TB	96TB-240TB
システムRAM	32GB	32GB	64GB	128GB
最大RAM**	64GB/96GB/160GB		96GB/128GB/192GB	160GB/192GB/256GB
SSDドライブ	120GB SSD	200GB SSD	480GB SSD	1.2TB SSD
プロセッサ	E5 2609 V4、8 コア、1.7 GHZ	E5 2620 V4、8 コア、2.1 GHZ	E5 2640 V4、10 コア、2.4 GHZ	E5 2650 V4、12 コア、2.2 GHZ
RAIDカード	9361-4i		9361-8i	
RAID構成	BBU 付き Raid-5		BBU 付き Raid-6	
ドライブベイ	4		12	
ドライブ	3x 2TB SAS 12G 4x 2TB SAS 12G	3x 4TB SAS 12G 4x 4TB SAS 12G	6x 4TB SAS 12G 7x 4TB SAS 12G 8x 4TB SAS 12G 9x 4TB SAS 12G 10x 4TB SAS 12G 11x 4TB SAS 12G 12x 4TB SAS 12G	6x 8TB SAS 12G 7x 8TB SAS 12G 8x 8TB SAS 12G 9x 8TB SAS 12G 10x 8TB SAS 12G 11x 8TB SAS 12G 12x 8TB SAS 12G
DIMM/最大	4x 8GB DDR4-2400/ 8		4x 16GB DDR4-2400/ 8	4x 32GB DDR4-2400/ 8

---

DIMM			
カード	LSI SAS9200-8E		
電源	2 x ホット スワップ冗長 500W AC Platinum	2 x 920W ホット スワップ冗長 高効率 AC 電源、Platinum レベル	

\* 一般的な 3:1 のデデュプリケーションと圧縮率を想定して容量を推定しています。バックアップの実際の容量は、データの種類、バックアップの種類、バックアップスケジュールなどに基づいて、大幅に変わる可能性があります。

\*\* Arcserve アプライアンスには、アプライアンス上で仮想スタンバイ/インスタント VM の復旧をホストするために、追加の RAM があります。VM のメモリ割り当ては、ゲスト OS のワークロードに基づいてサイズ設定する必要があります。Arcserve では、お客様のニーズに基づいて、標準のアプライアンス構成に RAM を追加するオプションも提供します。

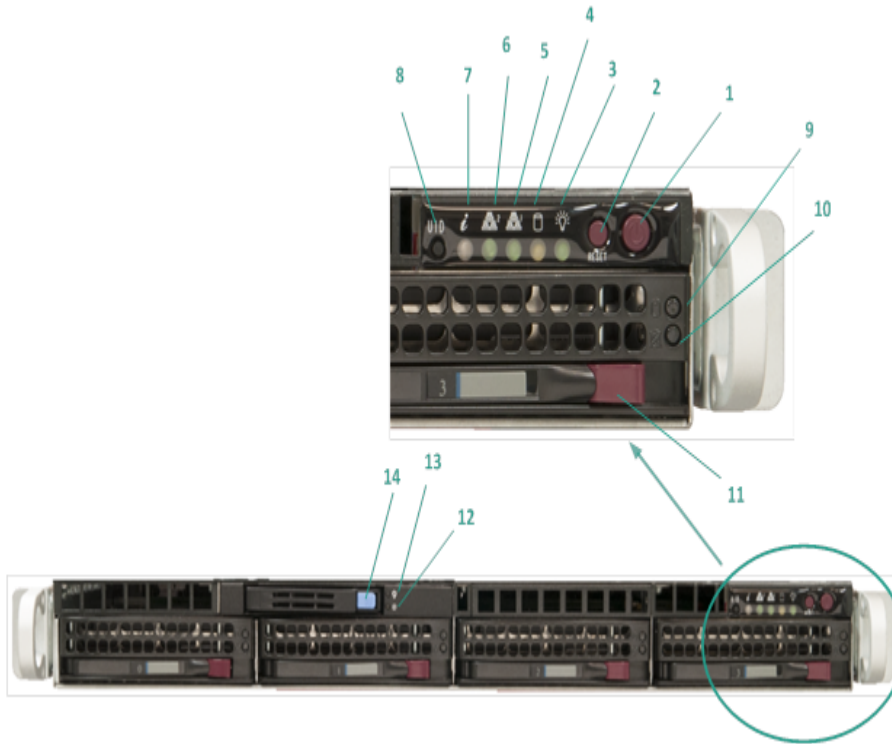
## コントロールおよびインジケータ

Arcserve UDP アプライアンスには、前面および背面のパネルと各ドライブ キャリアにいくつかのコントロールとインジケータ( LED) が備わっています。これらのコントロールおよびインジケータによって、さまざまな機能を制御でき、アプライアンスとコンポーネントのステータスをすばやく参照する機能を提供します。

- [前面パネル 7100-7300v](#)
- [前面パネル 7400-7600v](#)
- [前面パネル 8100-8200](#)
- [前面パネル 8300-8400](#)
- [背面パネル 7100-7300v](#)
- [背面パネル 7400-7600v](#)
- [背面パネル 8100-8200](#)
- [背面パネル 8300-8400](#)

## 前面パネル 7100-7300v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源LED	<b>緑</b> : アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
4	デバイスアクティビティLED	<b>オレンジ(点滅)</b> : 少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
5	ネットワーク	<b>オレンジ(点滅)</b> : ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークア

	インターフェイスカード (NIC1) LED	アクティビティを示します。
6	ネットワークインターフェイスカード (NIC2) LED	<b>オレンジ(点滅)</b> : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
7	情報 LED	<p><b>赤で点灯</b>: 過熱状態が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p><b>*赤の点滅 - 高速(1秒)</b>: ファンの障害です。動作していないファンを確認します。</p> <p><b>*赤の点滅 - 低速(4秒)</b>: 電源の障害です。動作していない電源を確認してください。</p> <p><b>青で点灯</b>: ローカルUID がアクティブ化されました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p><b>青の点滅</b>: リモート UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
8	ユニット識別子 (UID) ボタン	<p>アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報(青)をオンまたはオフにするために使用されます。</p> <p>青色のLEDがオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます(前または後ろのいずれか)。</p>
9	ハードドライブ (HDD) LED	<b>緑の点滅</b> : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハードドライブ (HDD) LED	<p><b>*赤で点灯</b>: 対応するハードドライブの失敗を示します。</p> <p>Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
11	ハードドライブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
12	ソリッドステートドライブ (SSD) LED	<b>*赤で点灯</b> : ドライブの障害を示します。
13	ソリッドステートドライブ (SSD) LED	<p><b>緑で点灯</b>: ドライブのアクティビティを示します。</p> <p><b>緑の点滅</b>: ドライブがアクセスされていることを示します。</p>

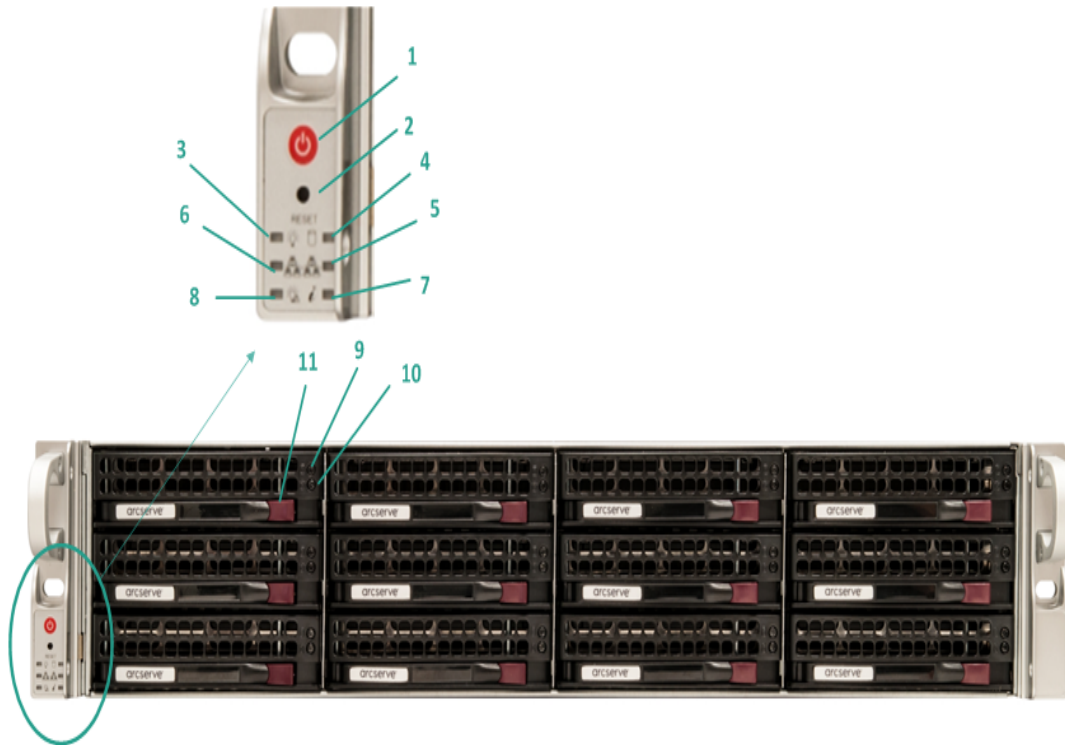
---

14	ソリッドステートドライブ(SSD)ラッチ	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
----	----------------------	--------------------------------

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポートサイト([arcserve.com/support](https://arcserve.com/support))までお問い合わせください。

## 前面パネル 7400-7600v

Arcserve UDP アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらの項目について説明します。



番号	コントロール/インジケータ	説明
1	電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2	リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
3	電源LED	緑: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
4	デバイスアクティビティLED	オレンジ(点滅): 少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
5	ネットワー	オレンジ(点滅): ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークアクティビティ

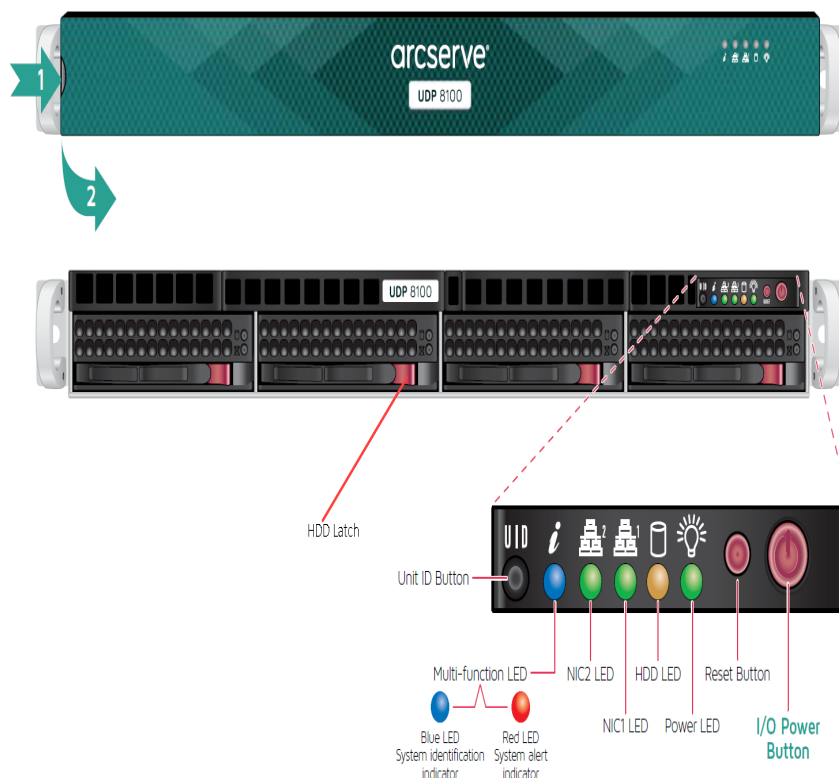
	クインターフェイスカード (NIC1) LED	を示します。
6	ネットワークインターフェイスカード (NIC2) LED	<b>オレンジ(点滅)</b> : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
7	情報 LED	<p><b>赤で点灯</b>: 過熱状態が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p><b>*赤の点滅 - 高速(1秒)</b>: ファンの障害です。動作していないファンを確認します。</p> <p><b>*赤の点滅 - 低速(4秒)</b>: 電源の障害です。動作していない電源を確認してください。</p> <p><b>青で点灯</b>: ローカル UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p><b>青の点滅</b>: リモート UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
8	電源失敗	電源モジュールが失敗したことを示します。
9	ハードドライブ (HDD) LED	<b>緑の点滅</b> : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
10	ハードドライブ (HDD) LED	<p><b>*赤で点灯</b>: 対応するハードドライブの失敗を示します。</p> <p>Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの 1 つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
11	ハードドライブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポート サイト ([arcserve.com/support](http://arcserve.com/support)) までお問い合わせください。



## 前面パネル 8100-8200

Arcserve UDP 8100-8200 アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



コントロールインジケータ	説明
I/O 電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源 LED	緑: アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
HDD LED	オレンジ(点滅): 少なくとも1つのハードドライブ上のアクティビティを示します。
ネットワーク	オレンジ(点滅): ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。

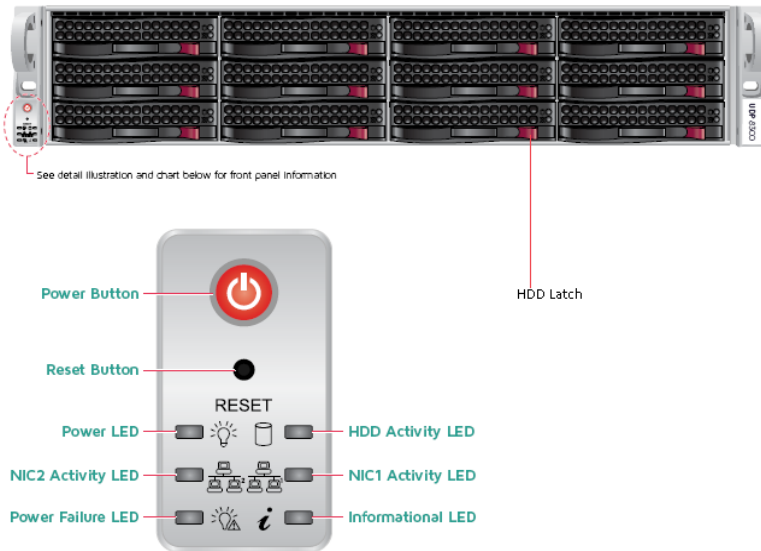
インターフェイスカード (NIC1) LED	示します。
ネットワークインターフェイスカード (NIC2) LED	<b>オレンジ(点滅)</b> : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワーク アクティビティを示します。
情報 LED	<p><b>赤で点灯</b>: 過熱状態が発生しました。</p> <p><b>注</b>: ケーブル輻輳が原因で、このような状況が発生する可能性があります。</p> <p><b>*赤の点滅 - 高速(1秒)</b>: ファンの障害です。動作していないファンを確認します。</p> <p><b>*赤の点滅 - 低速(4秒)</b>: 電源の障害です。動作していない電源を確認してください。</p> <p><b>青で点灯</b>: ローカル UID がアクティブ化されます。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p><b>青の点滅</b>: リモート UID がアクティブ化されます。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
ユニット識別子 (UID) ボタン	<p>アプライアンスの前面パネルと背面パネルの両方でユニバーサル情報(青)をオンまたはオフにするために使用されます。</p> <p>青色の LED がオンである場合、アプライアンスをラック内で簡単に特定できます(前または後ろのいずれか)。</p>
ハードドライブ (HDD) LED	<b>緑の点滅</b> : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
ハードドライブ (HDD) LED	<p><b>*赤で点灯</b>: 対応するハードドライブの失敗を示します。</p> <p>Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの 1 つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
ハードドライブ (HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。
ソリッドステートドライブ (SSD) LED	<b>*赤で点灯</b> : ドライブの障害を示します。
ソリッドステートドライブ (SSD) LED	<p><b>緑で点灯</b>: ドライブのアクティビティを示します。</p> <p><b>緑の点滅</b>: ドライブがアクセスされていることを示します。</p>
ソリッドステートドライブ (SSD)	SSDドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

テートドライブ(SSD)ラッチ	
-----------------	--

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポート サイト( [arcserve.com/support](https://arcserve.com/support) ) までお問い合わせください。

## 前面パネル 8300-8400

Arcserve UDP 8300-8400 アプライアンスの前面パネルには、コントロールパネルボタン、コントロールパネルLED、ドライブキャリアLEDが備わっています。以下の表で、これらのアイテムについて説明します。



This LED alerts the operator of several states, as noted in the chart below.

Status	Description
Continuously on and red	An overheat condition has occurred.(May be due to cable congestion.)
Blinking red (1Hz)	Fan failure, check for inoperative fan
Blinking red (0.25 Hz)	Power failure, check for a non-operational power supply
Solid Blue	Local UID has been activated. Use this function to locate the server in a rack mount environment.
Blinking Blue	Remote UID is on. Use this function to identify the server from a remote location.

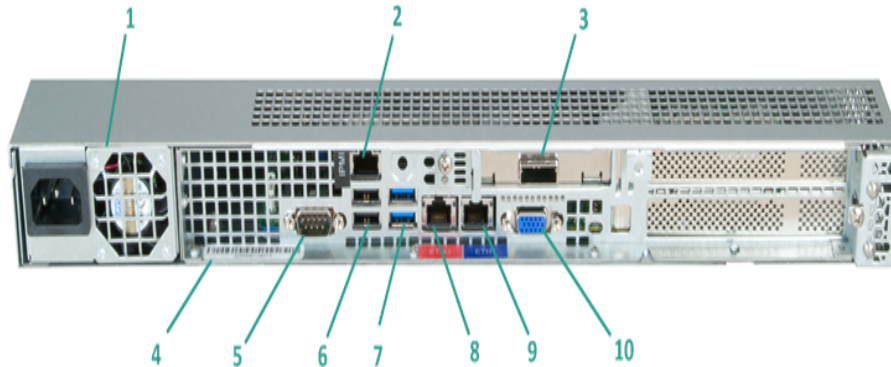
コントロールインジケータ	説明
電源ボタン	アプライアンスコンポーネントに対して電源をオンまたはオフにするために使用されます。電源をオフにした場合、主電源はオフになりますが、スタンバイ電源は引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
リセットボタン	アプライアンスを再起動するために使用されます。
電源LED	<b>緑:</b> アプライアンスの電源に電力が供給されていることを示します。 アプライアンスの稼働中は、通常このLEDが点灯しています。
ネットワークインターフェースカード (NIC1)	<b>オレンジ(点滅):</b> ネットワーク1 (ETH0ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。

LED	
ネットワークインターフェースカード (NIC2) LED	<b>オレンジ(点滅)</b> : ネットワーク 2 (ETH1 ポート) 上のネットワークアクティビティを示します。
情報 LED	<p><b>赤で点灯</b>: 過熱状態が発生しました。(これはケーブル輻輳が原因で発生する可能性があります。)</p> <p><b>*赤の点滅 - 高速(1秒)</b>: ファンの障害です。動作していないファンを確認します。</p> <p><b>*赤の点滅 - 低速(4秒)</b>: 電源の障害です。動作していない電源を確認してください。</p> <p><b>青で点灯</b>: ローカル UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、ラック環境のサーバを特定します。</p> <p><b>青の点滅</b>: リモート UID がアクティブ化されました。この機能を使用して、リモートの場所からサーバを特定します。</p>
電源障害 LED	電源モジュールが失敗したことを示します。
ハードドライブ(HDD) LED	<b>緑の点滅</b> : 対応するドライブ上のアクティビティを示します。
ハードドライブ(HDD) LED	<p><b>*赤で点灯</b>: 対応するハードドライブの失敗を示します。</p> <p>Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。</p>
ハードドライブ(HDD) ラッチ	ハードドライブのロックを解除して取り外すために使用されます。

\*赤色が点灯または点滅している場合は、何らかの障害を示します。この問題を迅速に解決するには、弊社サポート サイト( [arcserve.com/support](http://arcserve.com/support)) までお問い合わせください。

## 背面パネル 7100-7300v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

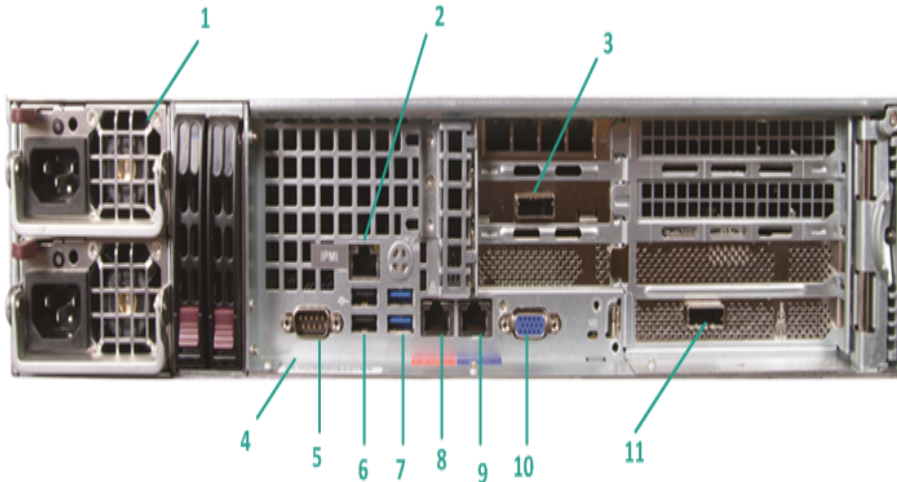


番号	コントロール/インジケータの名前	説明
1	電源	<p>高効率電源をアプライアンスに提供します。</p> <p><b>注:</b> 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用できます。このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。</p>
2	IPMIポート(リモート管理)	<p>IPMI (インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。</p> <p><b>注:</b> IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「<a href="#">IPMI パスワードを変更する方法</a>」を参照してください。</p>
3	外部ストレージデバイスのポート (テープドライブの場合は SAS ポー	<p>外部ストレージデバイス(ハードドライブ、テープドライブなど)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。</p>

	ト)	
4	シリアル 番号のラ ベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1シ リアル ポート	シリアルデバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワ ークデー タ I/O ポ ート 1	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク1の場合は ETH0)
9	ネットワ ークデー タ I/O ポ ート 2	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク2の場合は ETH1)
10	VGA コネ クタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。

## 背面パネル 7400-7600v

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



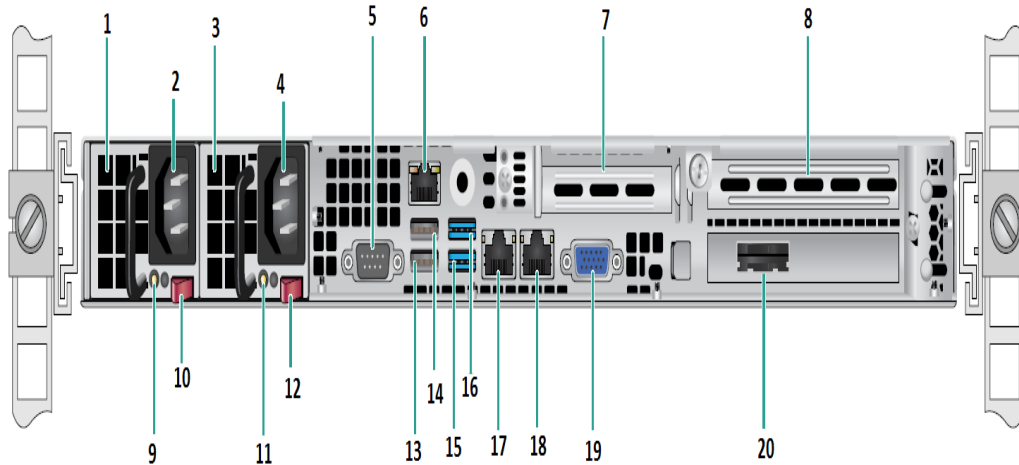
番号	コントロール/インジケータの名前	説明
1	デュアル電源	<p>高効率電源をアプライアンスに提供します。</p> <p><b>注:</b> 主電源スイッチは、アプライアンスに対する電源の供給または切断に使用できます。デュアル電源の利点は、1つの電源が失敗しても、別の電源を使用できることです。</p> <p>このボタンを使用してアプライアンスの主電源をオフにした場合、スタンバイ電源が引き続き供給されます。そのため、アプライアンスの電源を完全にオフにするには、メンテナンスを実行する前に電源ケーブルをコンセントから抜いてください。</p>
2	IPMI ポート (リモート管理)	<p>IPMI (インテリジェントプラットフォーム管理インターフェース) ポートを使用すると、温度、電圧、ファン、電源、アプライアンスなどのサーバの物理状態をモニタできます。</p> <p><b>注:</b> IPMI アクセス用のデフォルトのユーザ名/パスワードは ADMIN/ARCAADMIN です(大文字と小文字が区別されます)。このパスワードはできる限り早く変更することをお勧めします。IPMI パスワードを変更する方法の詳細については、「<a href="#">IPMI パスワードを変更する方法</a>」を参照してください。</p>
3	外部ストレージデバイスのポート	<p>外部ストレージデバイス(ハードドライブ、テープドライブなど)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。</p>



	(テープドライブの場合はSASポート)	
4	シリアル番号のラベル	アプライアンスに割り当てられている一意のシリアル番号。
5	COM1シリアルポート	シリアルデバイス(マウスなど)をアプライアンスに接続するために使用される通信ポート。
6	USB 2.0 (黒)	USB 2.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
7	USB 3.0 (青)	USB 3.0タイプのデバイスをアプライアンスに接続するために使用されます。
8	ネットワークデータI/Oポート1	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク1の場合はETH0)
9	ネットワークデータI/Oポート2	ネットワークデータをアプライアンスから転送するために使用されます。(ネットワーク2の場合はETH1)
10	VGAコネクタ	モニタをアプライアンスに接続するために使用されます(必要な場合)。
11	外部ストレージデバイスのポート (テープオートローダ/ライブラリ) LSI SAS 9212 - 4i4e	外部ストレージデバイス(テープオートローダ/ライブラリ)をアプライアンスに接続するために使用されます。これらのポータブル外部ストレージデバイスを使用して、バックアップデータを保存して1つの場所から別の場所に簡単に移動させることができます。 注: このポートは、オペレーティングシステムでは LSI Adapter SAS2 2008 Falcon として表示されます。

## 背面パネル 8100-8200

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。

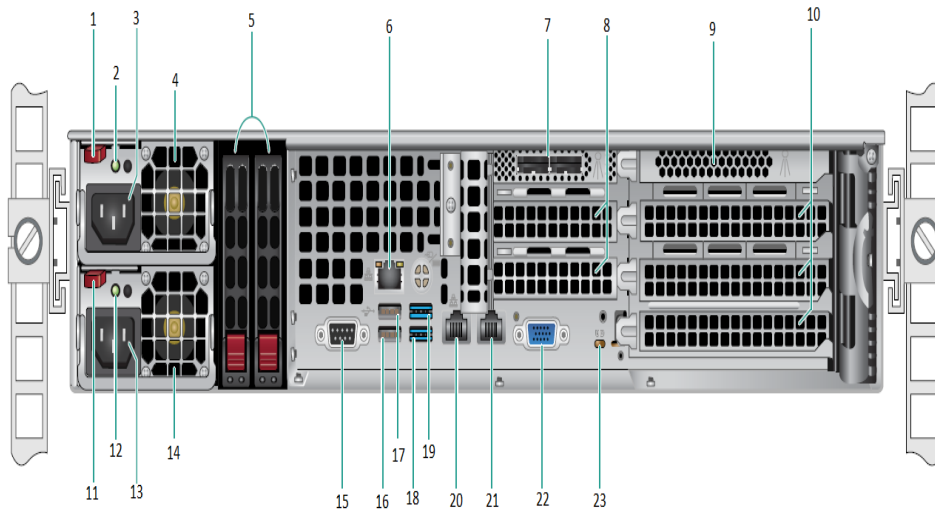


番号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール #1
2	AC 電源 インレット #1
3	電源 #2
4	AC 電源 インレット #2
5	COM ポート
6	IPMI ポート (リモート管理)
7	低プロファイル PCI 拡張スロット
8	PCI 拡張スロット
9	パワーグッド LED #1
10	電源ロック #1
11	パワーグッド LED #2
12	電源ロック #2
13	USB 2.0 ポート 1 (黒)
14	USB 2.0 ポート 2 (黒)
15	USB 3.0 ポート 3 (青)
16	USB 3.0 ポート 4 (青)
17	ネットワークデータ I/O ポート 1 (ネットワーク 1 の場合は ETH0)
18	ネットワークデータ I/O ポート 2 (ネットワーク 2 の場合は ETH1)

19	VGA ポート
20	外部ストレージ デバイスのポート (テープドライブの場合は SAS ポート)

## 背面パネル 8300-8400

背面パネルには、アプライアンス用の電源、ケーブル接続、ポートが備わっています。



番号	コントロール/インジケータの名前
1	電源モジュール#1 ロック
2	電源モジュール#1 パワーグッド LED
3	電源モジュール#1 AC ソケット
4	電源モジュール#1 ファン
5	背面 SSD (オプション)
6	IPMI ポート (リモート管理)
7	外部 SAS HBA ポート
8	ハーフサイズ PCI 拡張スロット
9	内部 RAID コントローラ
10	フルサイズ PCI 拡張スロット
11	電源モジュール#2 ロック
12	電源モジュール#2 パワーグッド LED
13	電源モジュール#2 AC ソケット
14	電源モジュール#2 ファン
15	COM ポート
16	USB ポート 1 (第 2 世代)
17	USB ポート 2 (第 2 世代)
18	USB ポート 3 (第 3 世代)

19	USB ポート 4 ( 第 3 世代 )
20	ETH0 ( ネットワーク 1 )
21	ETH1 ( ネットワーク 2 )
22	VGA ポート ( モニタ )
23	UID LED

## アプライアンスが使用するポート

以下の表に、Arcserve UDP、Arcserve Backup、Linux 用アプライアンスのサポートによって使用されるポートに関する情報を示します。

### Linux 用アプライアンスのサポート

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
8018	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8018 を Linux バックアップ サーバエージェントのポート 8014 にリダイレクトします。
8019	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8019 を Linux バックアップ サーバの SSH ポート 22 にリダイレクトします。
8036	TCP			NAT ポート リダイレクション。アプライアンス上の 8036 を Linux バックアップ サーバのポート 8036 にリダイレクトします。

### Arcserve UDP

#### Microsoft Windows にインストールされるコンポーネント

LAN 環境を使用している場合、バックアップなどのジョブを行うには以下のポートが必要です。

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
1433	TCP	リモート Java	sqlsrvr.exe	Arcserve UDP コンソールと Microsoft SQL Server データベースが異なるコンピュータに存在する場合、その間のデフォルトの通信ポートを指定します。 <b>注:</b> デフォルトの通信ポートは、SQL Server をインストールするときに変更できます。
4090	TCP	Arcserve UDP エージェント	HATransServer.exe	プロキシ モードで仮想スタンバイタスクのデータを転送します。
5000	TCP	Arcserve	GDDServer.exe	Arcserve UDP RPS グローバル デデュープリケーション データストア サービス( GDD) 用に予約

~ 506- 0		UDP サー バ		されています。1つの Arcserve UDP GDD データストアは、5000 以降の3つの空きポートを使用します。GDD データストアに対するバックアップが有効化されている場合、またはリストアタスクを使用している場合にはこれが必要です。
605- 2	TC- P	Arcse- rve Backu- p GDB	CA.ARCserve.Communication- Foundation. WindowsService.exe	CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Wi- ndowsService.exe Arcserve UDP コンソールと Arcserve Backup グ ローバルダッシュボード プライマリサーバで データを同期するための通信。
605- 4	TC- P	Arcse- rve Backu- p		CA.ARCserve.CommunicationFoundation.Wi- ndowsService.exe Arcserve UDP コンソールと Arcserve Backup プ ライマリサーバでデータを同期するための通 信。
800- 6				Arcserve UDP コンソールによって使用される Tomcat をシャットダウンします。
801- 4	TC- P	Arcse- rve UDP コン ソー ル	Tomcat7.exe	リモート管理コンソールと Arcserve UDP サー バの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポ ートを指定します。 リモート管理コンソールと Arcserve UDP エー ジェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通 信ポートを指定します。 注: デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更 できます。
801- 4	TC- P	Arcse- rve UDP サー バ	httpd.exe	Arcserve UDP サーバと Arcserve UDP コンソ ールの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポ ートを指定します。 *デフォルトの共有ポートであり、Arcserve UDP サーバをレプリケーション デスティネーシ ョンとして使用する場合に開く必要のある唯 一のポートを指定します。ポート 5000 ~ 5060 は、グローバルデデублиケーションが有 効化されているときにデータストアによって使 用されるため開かないください。 注: デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更 できます。
801- 5	TC- P	Arcse- rve	Tomcat7.exe	リモート管理コンソールと Arcserve UDP サー バの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポ

		UDP コン ソール		トを指定します。 リモート管理コンソールと Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。 <b>注:</b> デフォルトの通信ポートは、Arcserve UDP コンポーネントをインストールするときに変更できます。
801-6	TC- P	Arcserve UDP サーバ	Tomcat7.exe	同じサーバ上の Arcserve UDP RPS ポート共有サービスと通信する Arcserve UDP サーバ Web サービス用に予約済みです。 <b>注:</b> ポートはカスタマイズできません。ファイアウォール設定では無視できます。
180-05			CA.ARCserve.Communication-Foundation. WindowsService.exe	Arcserve UDP サーバまたはエージェントによって使用される Tomcat をシャットダウンします。

Linux にインストールされているコンポーネント

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22	TCP	SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
67	UDP	Arcserve UDP Linux	bootpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 <b>注:</b> ポート番号はカスタマイズできません。
69	UDP	Arcserve UDP Linux	tftpd	PXE ブート サーバで使用されます。PXE ブート機能の使用を必要としている場合のみ必須です。このポートは受信通信に必要です。 <b>注:</b> ポート番号はカスタマイズできません。



				イズできません。
8014	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	リモート コンソールと Linux 用 Arcserve UDP エージェントの間のデフォルトの HTTP/HTTPS 通信ポートを指定します。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。
18005	TCP	Arcserve UDP Linux	Java	Tomcat によって使用されます。ファイアウォールの設定では無視できます。

リモートで UDP Linux により保護されている実稼働ノード

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
22		SSH サービス		Arcserve UDP Linux サードパーティ依存性。SSH サービスのデフォルトを指定しますが、このポートは変更できます。このポートは受信および送信通信の両方に必要です。

\* ポート共有はレプリケーション ジョブのためにサポートされています。異なるポート上のデータはすべてポート 8014 ( Arcserve UDP サーバ用のデフォルト ポート。インストール時に変更可能) に転送できます。WAN 上にある 2 つの復旧サーバポイント間でレプリケーション ジョブを実行する時には、ポート 8014 のみが開いている必要があります。

同様に、リモートレプリケーションの場合、リモート管理者はポート 8014 ( データレプリケーション用) とポート 8015 ( Arcserve UDP コンソール用のデフォルト ポート。インストール時に変更可能) を開くか転送して、割り当てられたレプリケーション プランをローカル復旧ポイントサーバが取得できるようにする必要があります。

Arcserve Backup

ポート番号	ポートの種類	起動元	受信待機プロセス	説明
135	TCP			Microsoft ポート マッパー
445	TCP		名前付きパイプ上の MSRPC	
6050	TCP/UDP	CASUniversalAgent	Univagent.exe	Arcserve Universal Agent
6502	TCP	Arcserve Communication Foundation	CA.Arcserve.CommunicationFoundation.WindowsService.exe	Arcserve Communication Foundation
6502	TCP	CASTapeEngine	Tapeng.exe	Arcserve Tape Engine

6503	TCP	CASJobEngine	Jobengine.exe	Arcserve Job Engine
6504	TCP	CASDBEngine	DBEng.exe	Arcserve Database Engine
7854	TCP	CASportmapper	Catirpc.exe	Arcserve PortMapper
4152-3	TCP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
4152-4	UDP	CASDiscovery	casdscsvc.exe	Arcserve Discovery Service
9000-9500	TCP		動的ポートを使用する他の Arcserve MS RPC サービス用	

## 製品ドキュメント

Arcserve UDP 関連のすべてのドキュメントを参照するには、このリンクをクリックして [Arcserve のドキュメント](#) にアクセスしてください。

Arcserve UDP ナレッジ センターは、以下のドキュメントで構成されています。

- **Arcserve UDP ソリューションガイド**

一元管理されたコンソール環境で Arcserve UDP ソリューションを使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、ソリューションをインストールおよび設定する方法、データを保護およびリストアする方法、レポートを取得する方法、Arcserve High Availability を管理する方法などの情報が含まれています。手順には、コンソールの使用を中心に、さまざまな保護プランの使用方法が含まれています。

- **Arcserve UDP リリースノート**

Arcserve Unified Data Protection の主な機能、システム要件、既知の問題、ドキュメントの問題、制限事項などの概要が説明されています。

- **Arcserve UDP Agent for Windows ユーザガイド**

Windows オペレーティングシステムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Windows ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

- **Arcserve UDP Agent for Linux ユーザガイド**

Linux オペレーティングシステムで Arcserve UDP Agent を使用するための詳細情報が提供されています。このガイドには、エージェントをインストールおよび設定する方法、Linux ノードを保護およびリストアする方法などの情報が含まれています。

---

## 言語サポート

英語および複数のローカル言語のドキュメントが用意されています。

翻訳済み製品 (ローカライズ済み製品とも言います) とは、製品のユーザインターフェース、オンラインヘルプ、その他のドキュメントのローカル言語サポートに加えて、日付、時刻、通貨、数値に関してローカル言語でのデフォルトの書式設定をサポートする国際化製品です。

このリリースは、以下の言語で使用できます。

- 英語
- 中国語 (簡体字)
- 中国語 (繁体字)
- フランス語
- ドイツ語
- イタリア語
- 日本語
- ポルトガル語 (ブラジル)
- スペイン語

---

## 第 2 章: Arcserve UDP アプライアンスの設置

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法</a> .....	54
<a href="#">8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法</a> .....	55

## 8100-8200 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[8100-8200 のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。

## 8300-8400 シリーズ アプライアンスの設置方法

アプライアンスは、限られた領域のみに設置することを目的としています。初期設定およびメンテナンスは、専門の担当者が実行する必要があります。

完全な設置プロセスについては、「[8300-8400 のアプライアンスの設置](#)」を参照してください。





---

## 第 3 章: アプライアンス上の Arcserve UDP のアップグレード

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法</a>	58
<a href="#">Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法</a>	60
<a href="#">Arcserve UDP アプライアンス上のアップグレード シーケンス</a>	61
<a href="#">UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス</a>	67
<a href="#">アプライアンスのアップグレードに関する既知の問題</a>	67

## アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法

Arcserve Unified Data Protection v5 を v6 にアップグレードする場合は、インストールの前にアプライアンス環境設定ウィザードを使用してアプライアンス設定を完了する必要があります。そうしないと、以下のメッセージが表示されます。



以下のシナリオに対して Arcserve UDP をアップグレードできます。

- Arcserve UDP アプライアンスを UDP コンソールとして機能するように使用する場合は、アプライアンス環境設定ウィザードの各手順に従って UDP アプライアンスの設定を完了します。または、[キャンセル]をクリックして設定をスキップし、UDP コンソールを直接開きます。その後、アプライアンス上で UDP v6 のインストールを実行して Arcserve UDP をアップグレードできます。
- Arcserve UDP アプライアンスを既存の UDP v6 コンソール(たとえば Console-1)の UDP RPS として機能するように使用する場合は、以下の手順を実行して UDP アプライアンスを RPS として追加します。
  1. アプライアンス環境設定ウィザードの手順 1 で [キャンセル]をクリックします(ウィザードは UDP アプライアンス上で UDP コンソールを開きます)。
  2. アプライアンスから、UDP v6 インストールを実行し、UDP アプライアンスを v6 にアップグレードします。
  3. Console-1 をブラウザで開き、アプライアンスを RPS として追加します。
- Arcserve UDP アプライアンスを既存の UDP v5 コンソールの UDP RPS として機能するように使用する場合は、アプライアンス環境設定ウィザードの各手順に従って UDP アプライアンスの設定を完了します。または、[キャンセル]をクリックして設定をスキップし、UDP コンソールを直接開きます。

この環境で Arcserve UDP バージョン 6.0 にアップグレードするには、「Arcserve UDP ソリューションガイド」の「Arcserve UDP バージョン 6.0 へのアップグレード」を参照してください。

## Arcserve ソフトウェアのアップグレード後にライセンスを適用する方法

Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードした後、または Arcserve Backup を r16.5 SP1 から r17 にアップグレードした後は、Arcserve UDP アプライアンス上の元のライセンスキーは機能しません。Arcserve Unified Data Protection V6 および Arcserve Backup r17 用の新しいライセンスキーを取得するには、営業担当者までお問い合わせください。

Arcserve UDP のライセンスキーを追加する方法の詳細については、「*Arcserve Unified Data Protection* ソリューションガイド」で「**Arcserve UDP ライセンスを管理する方法**」の「**ライセンスの追加**」を参照してください。

Arcserve UDP のライセンスキーを追加する方法の詳細については、「*Arcserve Backup* 管理者ガイド」の「*Arcserve Backup* コンポーネント ライセンスの適用」を参照してください。

## Arcserve UDP アプライアンス上のアップグレード シーケンス

Arcserve UDP アプライアンス v5.0 から Arcserve UDP v6.0 へのアップグレードでは、以下のいずれかのシーケンスを伴う場合があります。

- Arcserve UDP のアップグレード
  - ◆ [Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード](#)
  - ◆ [Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード](#)
  - ◆ [複数の Arcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順](#)
- [Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード](#)
- [Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード](#)
- [UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス](#)

## Arcserve UDP コンソールおよび RPS として機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード

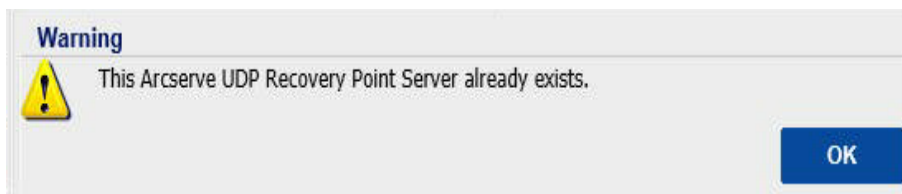
- この Arcserve UDP アプライアンスをアップグレードして、次に「[アップグレード シーケンス](#)」に説明されている手順に従って環境をアップグレードします。
- Arcserve UDP アプライアンス上でのアップグレードを完了します。詳細については、「[アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法](#)」セクションを参照してください。

## Arcserve UDP RPS としてのみ機能する Arcserve UDP アプライアンスのアップグレード

- 実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「[アップグレード シーケンス](#)」を参照してください。
- Arcserve UDP アプライアンス上でのアップグレードを完了します。詳細については、「[アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法](#)」セクションを参照してください。

## 複数の Arcserve UDP アプライアンスが環境で使用されている場合のアップグレード手順

- 実稼働環境全体をアップグレードします。詳細については、「[アップグレード シーケンス](#)」を参照してください。
- Arcserve UDP アプライアンス上でのアップグレードを完了します。詳細については、「[アプライアンス上で Arcserve UDP を v5 から v6 にアップグレードする方法](#)」セクションを参照してください。
- アップグレード後、Arcserve UDP コンソールからアプライアンスを RPS として追加するときに以下のような警告が表示される場合は、「[トラブルシューティング](#)」セクションの「[別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードがレポートされる](#)」トピックを参照してください。





## Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP Linux エージェントのアップグレード

- 最初に、Linux バックアップ サーバ環境を管理している Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
- 次に、Arcserve UDP アプライアンス上の Linux バックアップ サーバをアップグレードします。詳細については、「Arcserve Unified Data Protection Agent for Linux オンライン ヘルプ」を参照してください。

## Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve Backup のアップグレード

Arcserve UDP アプライアンス上でアップグレードを完了するには、「Arcserve Backup 実装ガイド」を参照してください。

## UDP コンソール、RPS、エージェントのアップグレード シーケンス

後方互換性サポート ポリシーに基づいて、以下の順序でアップグレードを計画し、アップグレードが円滑に行われるようにします。

1. Arcserve UDP コンソールをアップグレードします。
2. Arcserve UDP RPS ( DR サイト) をアップグレードします。
3. Arcserve UDP RPS ( データ センター) をアップグレードします。
4. Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、データ センター内の一部 エージェントをアップグレードします。
5. Arcserve UDP RPS ( リモート サイト) をアップグレードします。
6. Arcserve UDP エージェントレス プロキシ、リモート サイトの一部 エージェントをアップグレードします。

**注:** リモート サイトごとに、手順 5 と 6 を繰り返します。

7. Arcserve UDP 仮想スタンバイ モニタをアップグレードします。

**注:** レプリケーションの後方互換性サポート ポリシーに従って、常にソース RPS の前にターゲット RPS をアップグレードしてください。

## アプライアンスのアップグレードに関する既知の問題

- アプライアンスを Arcserve UDP v6 にアップグレードすると、アプライアンス上でファクトリリセットが機能しない

Arcserve UDP アプライアンス上で Arcserve UDP v6 にアップグレードした後、Arcserve UDP コンソールの [設定] タブに [ファクトリリセット] が表示されます。 [ファクトリリセットを実行] をクリックしてファクトリリセットを実行しようとした場合、 [Confirm Factory Reset (ファクトリリセットの確認)] ダイアログ ボックスの [リセット] をクリックすると、以下のエラー メッセージが表示されます。

*Appliance Factory Reset failed. Manually reset the appliance factory by using the following command: "powershell.exe .arcserve\_factoryreset.ps1 -perserve\_data -auto\_reboot " in cmd under path C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\Appliance. (アプライアンスのファクトリリセットに失敗しました。次のコマンドを使用してアプライアンスのファクトリリセットを手動で実行してください: "powershell.exe .arcserve\_factoryreset.ps1 -perserve\_data -auto\_reboot " (パス C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Management\Appliance の下にあるコマンド))*

注：このエラーメッセージは正しくありません。UDP v6 にアップグレードするアプライアンス ユーザの場合、アプライアンス マシン上に Arcserve UDP 復旧パーティションが存在しないため、ファクトリリセットはサポートされていません。

■ **アプライアンス上で Linux バックアップ サーバを使用しているときに Linux インスタント VM ジョブが失敗する**

アプライアンス上で Linux バックアップ サーバを使用する場合、Linux 復旧ポイント用のインスタント VM はアプライアンスでサポートされていません。

**現象**

Linux インスタント VM ジョブが失敗し、以下のエラーメッセージが表示されます。

Failed to get the IP address from the VM \$vmname. Please verify if the VM and the backup server are in the same network. ( VM \$vmname から IP アドレスを取得できませんでした。VM とバックアップ サーバが同一ネットワーク上にあることを確認してください。)

**解決策**

このエラーの原因は、インスタント VM ジョブで作成されたスタンバイ VM です。Linux バックアップ サーバは Appliance\_hostname:8018 でコンソールに追加されましたが、このジョブは Appliance\_hostname:8014 を通じて Linux バックアップ サーバへの接続を試行します。アプライアンス マシン上では、ポート 8014 は UDP Windows エージェント サービスによって監視されているため、インスタント VM ジョブは失敗します。

静的 IP で Linux インスタント VM ジョブを解決する回避策を使用できます。

以下の手順に従います。

1. UDP アプライアンス マシンに 2 つの空きポートを見つけます(たとえば、8018 と 8035)。

「netstat -aon|findstr "port"」を実行して、ポートが使用されているかを確認できます。

注：Arcserve UDP v6 をアップグレードしている場合、UDP アプライアンス マシン上のポート 8018 は Linux バックアップ サーバのポート 8014 にリダイレクトするよう設定されています。以下のコマンドを使用して、UDP アプライアンス マシン上のポート 8018 を解放します。

```
netsh interface portproxy delete v4tov4 listenport=8018
```

2. Linux バックアップ サーバで、次のファイル内の port="8014" を port="8018" に変更します：/opt/Arcserve/d2dserver/TOMCAT/conf/server.xml

3. Linux バックアップ サーバで、次のファイル内に新しい行 "dss\_port=8035" を追加します: /opt/Arcserve/d2dserver/configfiles/server.cfg

**注:** ファイルが存在しない場合は作成してください。以下のコマンドを実行して、Linux バックアップ サーバを再起動します。

```
/opt/Arcserve/d2dserver/bin/d2dserver restart
```

4. 以下のコマンドを実行して、ポート 8018 および 8035 に対して Linux マシンのファイアウォール上での通信を許可します。

```
#iptables -A INPUT -p tcp --dport 8018 -j ACCEPT
```

```
#iptables -A INPUT -p tcp --dport 8035 -j ACCEPT
```

```
#/etc/init.d/iptables save
```

5. UDP アプライアンス マシンで以下を実行します。

```
netsh interface portproxy add v4tov4 listenport=8018  
connectaddress=$VMIp connectport=8018 protocol=tcp
```

```
netsh interface portproxy add v4tov4 listenport=8035  
connectaddress=$VMIp connectport=8035 protocol=tcp
```

6. UDP アプライアンス マシンで以下を実行します。

- a. 以下の場所にあるファイル setdns.ps1 を開きます。

```
C:\Program Files\Arcserve\Unified Data  
Protection\Engine\BIN\Appliance
```

- b. ファイルの最後に以下の 2 行を追加します。

```
netsh interface portproxy add v4tov4 listenport=8018  
connectaddress=$VMIp connectport=8018 protocol=tcp
```

```
netsh interface portproxy add v4tov4 listenport=8035  
connectaddress=$VMIp connectport=8035 protocol=tcp
```

7. UDP コンソールで、Linux バックアップ サーバをポート 8018 で更新します。

**重要:** この回避策は、以下のオプションには適用されません。

- ◆ Linux マイグレーション BMR ジョブ
- ◆ デフォルトの Linux バックアップ サーバで Linux インスタント VM ジョブの DHCP を設定

---

## 第 4 章: Arcserve UDP アプライアンスの設定

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法</a>	71
<a href="#">UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要</a>	76
<a href="#">Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法</a>	77
<a href="#">プランへのノードの追加の詳細</a>	87
<a href="#">NIC チーミングを設定する方法</a>	96
<a href="#">ゲートウェイとしての UDP アプライアンスの設定</a>	98
<a href="#">環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用</a>	99
<a href="#">ブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用</a>	101
<a href="#">Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP の登録</a>	104

## UDP アプライアンス用にネットワーク環境を設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスを管理するには、最初にアプライアンスをネットワーク内に含めます。そのためには、ホスト名をアプライアンスに割り当て、ネットワークポートを設定する必要があります。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスの電源をオンにした後、Microsoft ライセンス条項に対する設定画面が表示されます。条件を確認して、同意します。
2. UDP の [エンド ユーザ使用許諾契約] ダイアログ ボックスが表示されます。使用許諾契約の内容を確認して同意し、[次へ] をクリックします。
3. アプライアンスのホスト名を入力します。名前を割り当てると、ネットワーク上でアプライアンスを識別するのに役立ちます。

アプライアンスをネットワーク内のドメインのメンバーにするには、[この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加] オプションをクリックし、ドメイン、ユーザ名、パスワードを指定します。

注：このオプションが選択されている場合、[ドメイン]、[ユーザ名]、[パスワード] フィールドが表示されます。

### Arcserve® へようこそ。UDP アプライアンス環境設定ツール

このツールを使用して、Arcserve UDP アプライアンスを LAN に接続し、Web ベースのコンソール UI でさらに環境設定を実行できるようにします。

ホスト名をアプライアンスに割り当てます。これは、お使いのローカル ネットワーク上でアプライアンスを識別するために使用されます。必要に応じて、アプライアンスをドメインに追加できます。

**!** 新しいホスト名を反映させるには、再起動が必要です。アプライアンスを再起動する前に、[環境設定] 画面で、その他の環境を設定することができます。

ホスト名

この Arcserve UDP アプライアンスをドメインに追加する

保存

**注:** 新しいホスト名を適用するには、アプライアンスを再起動する必要があります。アプライアンスを今すぐ再起動するか、またはネットワーク設定後に再起動するかを選択できます。

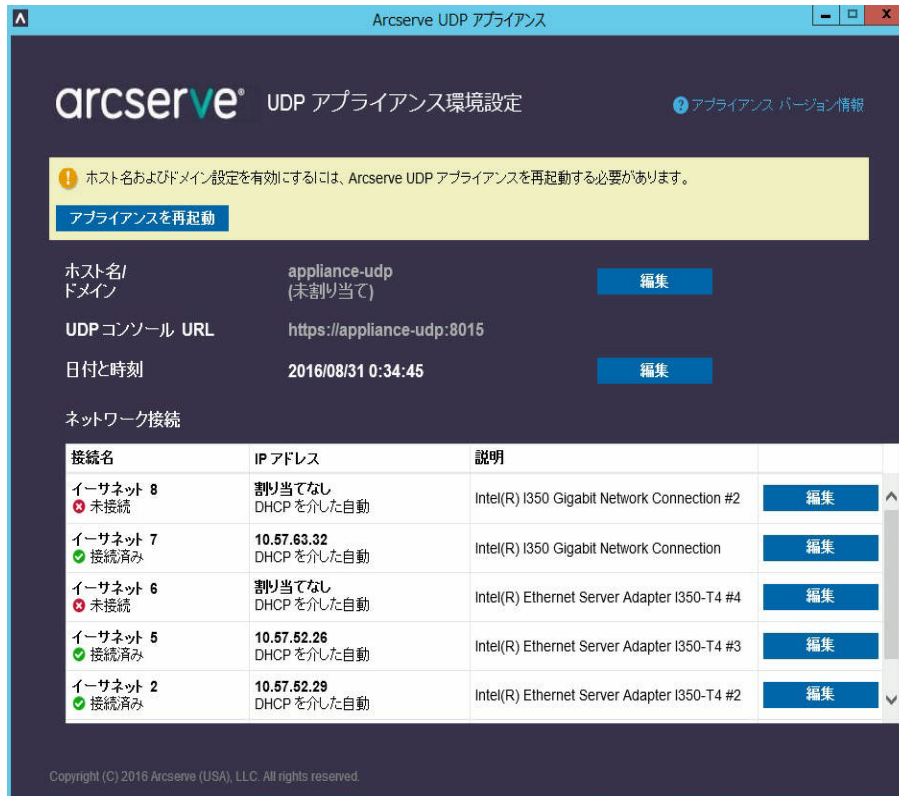
アプライアンスを再起動すると、他の任意のマシンから以下の URL を使用してアプライアンスにアクセスすることができます。

`https://<hostname>:8015`

4. **保存** をクリックします。
5. 以下のダイアログ ボックスが表示されます。

デフォルトでは、Arcserve UDP はネットワーク内のすべてのネットワーク接続を検出します。一部の接続が割り当てられていない場合は、手動で編集し、接続の詳細を指定する必要があります。





arcserve® UDP アプライアンス環境設定

アプライアンス バージョン情報

1 ホスト名およびドメイン設定を有効にするには、Arcserve UDP アプライアンスを再起動する必要があります。

アプライアンスを再起動

ホスト名/  
ドメイン appliance-udp  
(未割り当て) [編集](#)

UDP コンソール URL https://appliance-udp:8015

日付と時刻 2016/08/31 0:34:45 [編集](#)

ネットワーク接続

接続名	IP アドレス	説明	
イーサネット 8 ✖ 未接続	割り当てなし DHCP を介した自動	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #2	<a href="#">編集</a>
イーサネット 7 ✔ 接続済み	10.57.63.32 DHCP を介した自動	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection	<a href="#">編集</a>
イーサネット 6 ✖ 未接続	割り当てなし DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #4	<a href="#">編集</a>
イーサネット 5 ✔ 接続済み	10.57.52.26 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #3	<a href="#">編集</a>
イーサネット 2 ✔ 接続済み	10.57.52.29 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #2	<a href="#">編集</a>

Copyright (C) 2016 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

6. ネットワーク接続を編集するには、[ネットワーク接続]ボックスで **編集** をクリックします。

7. **ネットワーク接続** ダイアログ ボックスが表示されます。

## イーサネット

ステータス  接続済み

説明 Microsoft Hyper-V ネットワーク アダプター

接続  DHCP を使用して IP アドレスを自動的に取得するIP アドレス  .  .  . サブネット マスク  .  .  . デフォルト ゲートウェイ  .  .  .  DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する優先 DNS サーバー  .  .  . 代替 DNS サーバー  .  .  . 

保存

キャンセル

8. IP アドレス、サブネット マスク、デフォルト ゲートウェイの値を必要に応じて変更し、**保存** をクリックします。

**注:** 必要に応じて、ホスト名、ドメイン、日付と時刻を変更することもできます。

9. 変更を適用するには、**アプライアンスの再起動** をクリックしてアプライアンスを再起動します。

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されます。

10. **ログイン** 画面が再度表示されます。ユーザ名とパスワードを入力して、**Enter** キーを押します。
11. アプライアンスの環境設定画面が再度開いたら、**ウィザードの起動** をクリックします。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定 アプライアンス バージョン情報

[i] [ウィザードを起動]をクリックし、Arcserve UDP プラン環境設定ウィザードでアプライアンスの環境設定を続行します。

[ウィザードを起動](#)

ホスト名/  
ドメイン **appliance-udp**  
(未割り当て)

UDP コンソール URL <https://appliance-udp:8015>

日付と時刻 **2016/08/31 0:39:36** [編集](#)

ネットワーク接続

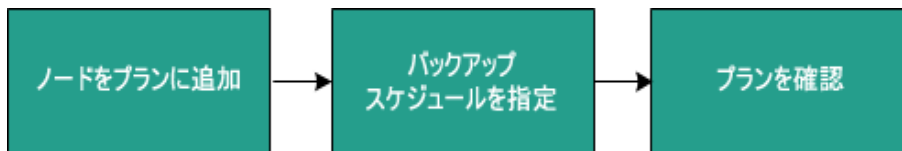
接続名	IP アドレス	説明	
イーサネット 8 ✖ 未接続	割り当てなし DHCP を介した自動	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection #2	<a href="#">編集</a>
イーサネット 7 ✔ 接続済み	10.57.63.32 DHCP を介した自動	Intel(R) I350 Gigabit Network Connection	<a href="#">編集</a>
イーサネット 6 ✖ 未接続	割り当てなし DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #4	<a href="#">編集</a>
イーサネット 5 ✔ 接続済み	169.254.90.66 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #3	<a href="#">編集</a>
イーサネット 2 ✔ 接続済み	169.254.149.63 DHCP を介した自動	Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #2	<a href="#">編集</a>

Copyright (C) 2016 Arcserve (USA), LLC. All rights reserved.

## UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成の概要

プランは、バックアップするノードおよびバックアップするタイミングを定義する手順の集合です。Arcserve UDP アプライアンスでは、基本的なプランを作成できます。UDP アプライアンス ウィザードを使用したプランの作成には、次の3つのステップがあります。

1. 保護するノードを追加します。Windows ノードまたは仮想マシンを vCenter/ESX または Hyper-V サーバから選択できます。
2. バックアップ スケジュールを定義します。
3. プランをチェックして確認します。



基本的なプランに加えて、Arcserve UDP では、UDP コンソールから複雑なプランを作成して多くのパラメータを制御することができます。UDP コンソールから複雑なプランを作成するには、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

## Arcserve UDP アプライアンスを設定してプランを作成する方法

アプライアンスが新しいホスト名で再起動されると、Unified Data Protection ウィザードが表示されます。ウィザードを使用して、バックアップをスケジュールするための基本プランを作成できます。プランでは、保護するノード、バックアップを作成するタイミングを定義できます。バックアップ先は、アプライアンスサーバです。

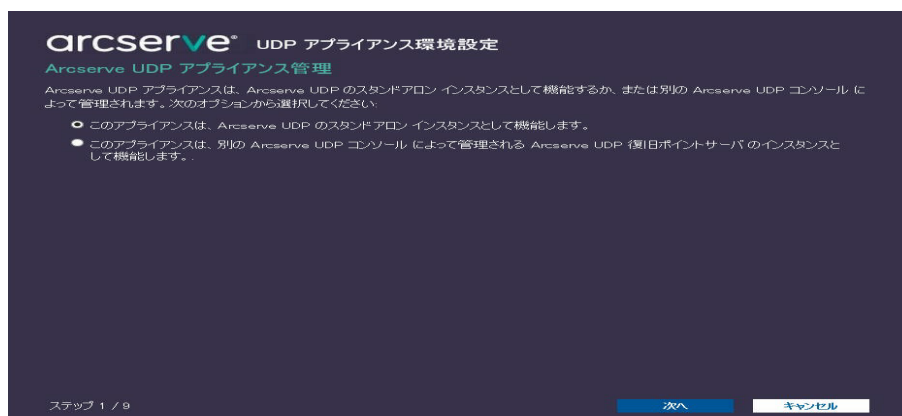
注：ウィザードのすべての手順はオプションです。これらをスキップし、直接 UDP コンソールを開いてプランを作成することもできます。



### [Arcserve UDP アプライアンス ウィザードを実行する方法](#)

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールにログインします。
2. Unified Data Protection ウィザードでは、**[Arcserve UDP アプライアンス管理]** ダイアログボックスが最初に表示されます。UDP コンソールは、スタンドアロンのインスタンスとして管理できます。または別の UDP コンソールからリモートで管理できます。リモート コンソール管理機能は、複数の UDP コンソールを管理している場合に便利です。



3. アプライアンスをローカルで管理するか(デフォルト)、別の UDP コンソールから管理するかを選択します。

アプライアンスが別の UDP コンソールから管理されている場合、UDP コンソールの URL、ユーザ名、パスワードを指定します。

4. [次へ]をクリックします。

注: [キャンセル]をクリックすると、ウィザードをいつでもキャンセルして Arcserve UDP コンソールを開くことができます。

5. [データストア]ダイアログボックスが表示されます。

データストアは、アプライアンス上の物理ストレージ領域で、バックアップ先として使用できます。

デフォルトでは、Arcserve UDP は <hostname>\_data\_store という名前でデータストアを作成します。このデータストアは、デデュプリケーションおよび暗号化に対応しています。デデュプリケーションおよび暗号化の詳細については、「Arcserve UDP ソリューションガイド」の「データ デデュプリケーション」を参照してください。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

データストア

データストア設定は以下のとおりです。Arcserve UDP コンソールからデータストアを追加できます。

appliance-udp_data_store	圧縮	標準
	デデュプリケーション	有効
合計容量 27.08 TB	暗号化	有効
	パスワード	<input type="password"/>
	パスワードの確認	<input type="password"/>

ステップ 2 / 9

前に戻る 次へ キャンセル

注: このデータストアは暗号化されるため、暗号化パスワードを指定する必要があります。

6. このデータストアに対する暗号化パスワードを入力し、確認します。
7. [次へ]をクリックします。

## 8. [電子メールおよびアラート]ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスでは、アラートを送信するために使用される電子メールサーバと、アラートを受け取る受信者を定義できます。成功したジョブ、失敗したジョブ、またはその両方に基づいてアラートを取得するオプションを選択できます。

The screenshot shows the 'arcserve® UDP アプライアンス環境設定' (Arcserve® UDP Appliance Environment Settings) dialog box, specifically the '電子メールとアラート' (Email and Alerts) section. The dialog is titled '電子メールとアラート' and contains the following fields and options:

- 電子メール通知を有効化します。
- サービス:
- 電子メールサーバ:
- ポート:
- 電子メール サービスには認証が必要です。
- 件名:
- 送信者:
- 受信者:
- オプション(O):
  - SSL を使用
  - STARTTLS の送信
  - HTML 形式を使用
- プロキシ サーバを使用して接続する
- プロキシ設定:
- テスト電子メールの送信:
- 送信されるアラート:
  - 成功したジョブ
  - 失敗したジョブ

At the bottom, it shows 'ステップ 3 / 9' and navigation buttons: '前に戻る', '次へ', and 'キャンセル'.

## 9. 以下の電子メールとアラートの詳細を指定します。

### サービス

Google メール、Yahoo メール、Live メール、などの電子メール サービスを指定します。

### 電子メールサーバ

電子メールサーバのアドレスを指定します。たとえば、Google サーバ電子メールの場合は smtp.gmail.com を指定します。

### ポート

電子メールサーバのポート番号を指定します。

### 認証が必要

電子メールサーバに認証が必要かどうかを指定します。認証が必要な場合は、認証用のアカウント名とパスワードを指定します。

#### 件名

受信者に送信される電子メールの件名を指定します。

#### 送信者

送信者の電子メールIDを指定します。受信者はこの送信者からメールを受信します。

#### 受信者

アラートを受信する受信者を指定します。(複数の受信者がいる場合はセミコロン(;)で区切ることができます。)

#### オプション

通信チャンネルに使用する暗号化方式を指定します。

#### プロキシサーバを使用して接続する

プロキシサーバ経由で電子メールサーバに接続している場合は、プロキシサーバのユーザ名とポート番号を指定します。また、プロキシサーバで認証が必要な場合は、ユーザ名とパスワードを指定します。

#### テスト電子メールを送信

テストメールを受信者に送信します。テストメールを送信することによって、詳細を確認できます。

10. **[次へ]**をクリックします。



11. [リモート RPS にレプリケート] ダイアログ ボックスが表示されます。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

リモート RPS へのレプリケーション

リモート管理の復旧ポイント サーバにレプリケートする場合は、以下の設定を行います。

このアプライアンスはリモート管理の RPS にレプリケートします。

Arcserve UDP コンソール URL

ユーザ名

パスワード

プロキシサーバを使用して接続します。

ログイン設定

このアプライアンスはリモート管理の RPS にレプリケートしません。

ステップ 4 / 9

前に戻る 次へ キャンセル

12. アプライアンスで、リモートで管理された復旧ポイント サーバ( RPS) にレプリケートするようには、以下の詳細を指定します。リモートで管理された RPS の詳細については、「Arcserve UDP ソリューション ガイド」を参照してください。

#### Arcserve UDP コンソールの URL

リモートの Arcserve UDP コンソールの URL を指定します。

#### ユーザ名 およびパスワード

リモート コンソールに接続するために使用されるユーザ名とパスワードを指定します。

#### プロキシサーバを使用して接続する

リモート コンソールがプロキシサーバの背後にある場合は、プロキシサーバの詳細を指定します。

13. アプライアンスで、リモートで管理された RPS にレプリケートしないようにするには、[このアプライアンスはリモートで管理された RPS にレプリケートしません] オプションを選択します。
14. [次へ]をクリックします。

15. [プランの作成] ダイアログ ボックスが表示されます。

このダイアログ ボックスを使用して、基本プランを作成し、保護するノードおよびバックアップのスケジュールを指定できます。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

プランの作成 [プランの作成について](#)

次に、データの保護プランを作成する必要があります。保護プランでは、ノードを追加し、バックアップ スケジュールを設定します。複数の保護プランを作成できます。

[プラン作成をスキップ](#)

プラン名

セッション パスワード

パスワードの確認

① セッション パスワードはデータのリストア時に必要になるため、保持しておくことが重要です。

ノードをプランにどのように追加しますか?

ステップ 5 / 9

[前に戻る](#) [次へ](#) [キャンセル](#)

注：ウィザードを使用して基本プランを作成しない場合は、[プランの作成をスキップ]をクリックします。これにより最後のダイアログ ボックスである [次の手順] ダイアログ ボックスが開きます。[完了]をクリックし、UDP コンソールを開いてプランを作成します。

16. プランを作成するために以下の詳細を指定します。

#### プラン名

プランの名前を指定します。(プラン名を指定しない場合は、デフォルトの名前として「保護プラン <n>」が割り当てられます。)

#### セッション パスワード

セッション パスワードを指定します。セッション パスワードは、データのリストア時に必要となるため重要です。パスワードを忘れないように注意してください。

#### ノードをプランにどのように追加しますか?

ノードをプランに追加する方法を指定します。以下の方法から1つを選択します。

◆ [ホスト名/IP アドレス](#)

この方法を使用する場合、ノードのホスト名またはIPアドレスを指定することによりノードを手動で追加します。必要な数だけノードを追加できます。

◆ [Active Directory からのノードのディスカバリ](#)

この方法は、Active Directory のノードを追加する場合に使用し、Active Directory の詳細を指定してノードのディスカバリを実行してからノードを追加します。

◆ [vCenter/ESX Server からインポート](#)

この方法を使用する場合、ESX または vCenter Server から仮想マシンノードをインポートします。このオプションでは、ここに指定したホスト名またはIPアドレスで検出されたすべての仮想マシンがリスト表示されます。

◆ [Hyper-V Server からインポート](#)

この方法を使用する場合、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートします。

方法を選択したら、各ダイアログボックスで詳細を指定します。

17. ノードがプランに追加されたら、**[次へ]**をクリックします。

18. [バックアップ スケジュール]ダイアログ ボックスが表示されます。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

バックアップ スケジュール

プランのバックアップ スケジュールの基準を入力します。

インストール/アップグレードおよび再起動のタイミング: 金曜日 21 : 00

日次増分バックアップの実行: 22 : 00

**スケジュール サマリ (選択内容に基づく)**

金曜日 の 21:00 に、Arcserve UDP エージェント の最新バージョンがまだインストールされていないすべてのソース ノードに最新バージョンがインストールされます。  
これらのノードは、インストール/アップグレードの完了後にすぐに再起動されます。  
Hyper-V または vCenter/ESX からインポートされたノードでは、エージェントのインストールと再起動は発生しません。

金曜日 の 22:00 に、最初のフル バックアップが実行されます。  
インストール/アップグレードが完了した後は、毎日 22:00 に増分バックアップが実行されます。

プランの作成をキャンセル

ステップ 7 / 9

前に戻る 次へ キャンセル

19. 以下のスケジュールを入力します。

- ◆ **Arcserve UDP エージェントのインストールまたはアップグレードのスケジュール:** Arcserve UDP エージェントの最新バージョンは、エージェントがインストールされていないソース ノードにインストールされます。以前のエージェントのインストールは、最新のバージョンにアップグレードされます。
- ◆ **増分バックアップスケジュール:** 初めはフルバックアップが実行され、その後は増分バックアップが実行されます。

**注:** インストール/アップグレード時間より前にバックアップ時間を指定すると、バックアップは自動的に次の日にスケジュールされます。たとえば、エージェントのインストールを金曜日の午後 9 時にスケジュールし、バックアップを午後 8 時にスケジュールした場合、バックアップは土曜日の午後 8 時に実行されます。

**プランの作成をキャンセル:** 作成したプランをキャンセルするには、[プランの作成をキャンセル]をクリックします。

20. **次へ**]をクリックします。
21. **プランの確認**]ダイアログ ボックスが開きます。



22. ここで、プランの詳細を確認することができます。必要に応じて、**ノードの編集**]または**スケジュールの編集**]をクリックしてノードまたはスケジュールを編集するか、プランを追加または削除できます。

#### ノードの編集

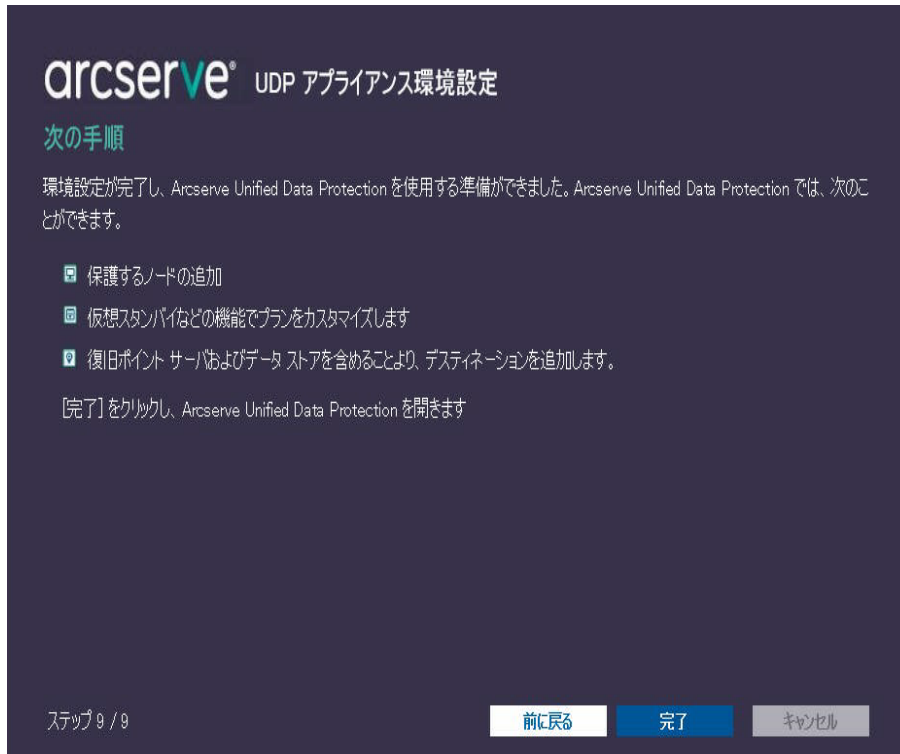
保護するソースノードを変更します。

#### スケジュールの編集

バックアップ スケジュールを変更します。

23. プランが正しいことを確認したら、**次へ**]をクリックします。
24. **次の手順**]ダイアログ ボックスが表示されます。

環境設定が正常に終了し、Arcserve UDP コンソールで作業する準備が整いました。保護するノードをさらに追加し、仮想スタンバイなどの機能でプランをカスタマイズし、復旧ポイント サーバおよびデータ ストアを含めることによってデステネーションを追加することができます。



25. **完了** ]をクリックしてウィザードを終了し、Arcserve UDP コンソールを開きます。

---

## プランへのノードの追加の詳細

さまざまなノードを保護するためのプランを作成します。ノードを保護するには、まずノードをプランに追加する必要があります。UDP アプライアンス ウィザードからノードを追加できます。ウィザードでは、以下の方法を使用してノードを追加できません。

- ノードの IP アドレスまたはホスト名を手動で入力  
( [ホスト名/IP アドレスによるノードの追加](#) )
- Active Directory からのノードのディスカバリ  
( [Active Directory によるノードの追加](#) )
- ESX/vCenter Server から仮想マシンノードをインポート  
( [vCenter/ESX ノードの追加](#) )
- Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポート  
( [Hyper-V ノードの追加](#) )

## ホスト名/IP アドレスによるノードの追加

ノードをプランに追加するために IP アドレスまたはホスト名を手動で入力することができます。追加するノード数が少ない場合はこの方法を使用しますが、複数のノードを 1 つずつ追加できます。Arcserve UDP エージェント ( Windows ) はこれらのノードにインストールされます。

以下の手順に従います。

1. [ホスト名/IP アドレスによるノードの追加] ダイアログボックスで、以下の詳細を入力します。

### ホスト名/IP アドレス

ソースノードのホスト名または IP アドレスを指定します。

### ユーザ名

管理者権限を持つノードのユーザ名を指定します。

### パスワード

ユーザパスワードを指定します。

### 説明



ノードを特定する説明を指定します。

### プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **[リストに追加]**をクリックします。

ノードが右ペインに追加されます。さらにノードを追加するには、これらの手順を繰り返します。追加されたすべてのノードは、右ペインにリスト表示されます。

3. (オプション) 追加したノードを右ペインのリストから削除するには、目的のノードを選択して **[削除]**をクリックします。

4. **[次へ]**をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

## Active Directory によるノードの追加

Active Directory のノードを追加するには、まず Active Directory の詳細を指定してノードのディスカバリを実行してから、ノードをプランに追加します。

以下の手順に従います。

1. 「Active Directory によるノードの追加」ダイアログボックスで、以下の詳細を入力します。

### ユーザー名

<ドメイン>\<ユーザー名> の形式でドメインおよびユーザー名を指定します。

### パスワード

ユーザーパスワードを指定します。

### コンピュータ名フィルタ

ノード名のディスカバリに使用するフィルタを指定します。

### プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **参照** をクリックします。

検出されたノードが表示されます。



ノードを追加するには、ノードを選択して検証する必要があります。

3. 検証するには、ノードを選択し、ユーザ名およびパスワードを入力して **適用** をクリックします。

認証情報が検証されました。検証済みノードには、緑色のチェックマークが付いています。ノードの検証が失敗した場合、認証情報を再入力して **適用** を再度クリックします。

注：ノードをリストに追加する前に各ノードを検証する必要があります。

4. **リストに追加** をクリックします。

選択したノードが右ペインに追加されます。

5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **削除** をクリックします。

6. **次へ** をクリックします。

ノードがプランに追加されます。

## vCenter/ESX ノードの追加

仮想マシンノードを VMware vCenter/ESX Server に追加できます。これらのノードを追加するには、vCenter/ESX Server からのノードを検出およびインポートする必要があります。

以下の手順に従います。

1. 「vCenter/ESX によるノードの追加」ダイアログボックスで、以下の vCenter/ESX Server の詳細を指定し、**接続** をクリックします。

### ホスト名/IP アドレス

vCenter/ESX Server のホスト名または IP アドレスを指定します。

### ポート

使用するポート番号を指定します。

### プロトコル

使用するプロトコルを指定します。

### ユーザ名

サーバのユーザ名を指定します。

## パスワード

ユーザ パスワードを指定します。

## プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. 検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。

arcserve® UDP アプライアンス環境設定

vCenter/ESX によるノードの追加 ノードの追加について

vCenter/ESX の情報を入力して、プランにノードを追加します。

名前	オブジェクトタイプ
105753.12	ホスト システム
Automation	リソース プール
shuli02-su (disk convert)	仮想マシン
shuli02-auto31 (Tungsten - vDS/MRP)	仮想マシン
shuli02-auto42 (Tungsten disk convert)	仮想マシン
shuli02-bq01 (vDS and MRP)	仮想マシン
liaca01	リソース プール
liuwe05	リソース プール

戻る リストに追加

プランで保護されているノード

ノード
shuli02-auto31
shuli02-auto42

削除

プランの作成のキャンセル

ステップ 6 / 9

前の戻る 次へ キャンセル

3. 追加するノードを選択してから、**[リストに追加]**をクリックします。  
選択したノードが右ペインに追加されます。
4. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **[削除]**をクリックします。
5. **[次へ]**をクリックします。  
ノードがプランに追加されます。

## Hyper-V ノードの追加

この方法を使用すると、Microsoft Hyper-V サーバから仮想マシンノードをインポートできます。

以下の手順に従います。

1. 「Hyper-V ノードの追加」ダイアログボックスで以下の詳細を指定します。

### ホスト名/IP アドレス

Hyper-V サーバの名前または IP アドレスを指定します。Hyper-V クラスタに含まれている仮想マシンをインポートするには、クラスタノード名または Hyper-V ホスト名のいずれかを指定します。

### ユーザ名

管理者権限のある Hyper-V ユーザ名を指定します。

**注:** Hyper-V クラスタの場合は、クラスタの管理者権限を持つドメインアカウントを使用します。スタンドアロン Hyper-V ホストの場合は、ドメインアカウントを使用することをお勧めします。

### パスワード

ユーザ名のパスワードを指定します。

## プラン作成のキャンセル

作成したプランをキャンセルします。

2. **接続** をクリックします。

検出されたホスト名が表示されます。ホスト名を展開してノードを参照します。



3. (オプション) **フィルタ** フィールドにノード名を入力して、ツリー内のノードを検索できます。
4. ノードを選択してから、**リストに追加** をクリックします。  
選択したノードが右ペインに追加されます。
5. (オプション) ノードを右ペインから削除するには、ノードを選択して **削除** をクリックします。
6. **次へ** をクリックします。  
ノードがプランに追加されます。

## NIC チーミングを設定する方法

Arcserve UDP アプライアンスには、イーサネット ポートが標準で備わっています。これらのポートを使用するには、イーサネット NIC チーミングを設定できます。NIC チーミングでは、複数のネットワークアダプタをチームにまとめることにより、帯域幅およびトラフィックのフェールオーバーを集約し、ネットワークコンポーネントに障害が発生した場合に接続を維持することができます。

使用可能な NIC チームを設定するには、リンクの集約をサポートするネットワークスイッチが必要です。ネットワークスイッチのベンダおよび Microsoft Windows の構成ドキュメントを参照し、NIC チームを適切に設定してください。

ネットワークスイッチを設定したら、以下の手順に従って、Arcserve UDP アプライアンスで NIC チームを使用できるようにします。

1. Windows デスクトップで、Arcserve UDP アプライアンス ウィザードを起動します。

**注:** DHCP または静的 IP アドレスを使用している場合、[ネットワーク接続] 画面で NIC チームの IP アドレスを設定できます。有効な IP アドレスが NIC チームに割り当てられており、ネットワーク上で利用可能であることを確認します。

接続名	IP アドレス	説明	
イーサネット ✔ 接続済み	10.58.174.53 DHCP を介した自動	Microsoft Hyper-V ネットワークアダプター	編集

2. サーバ マネージャで、[ツール]- [ルーティングとリモート アクセス]を選択します。[ルーティングとリモート アクセス]ダイアログ ボックスが表示されます。
3. アプライアンス サーバのノードを右クリックし、[ルーティングとリモート アクセスの無効化]を選択します。

**注:** 他のルーティングとリモート アクセス機能が別の目的で設定されている場合は、これらの手順の完了後に再度設定することをお勧めします。



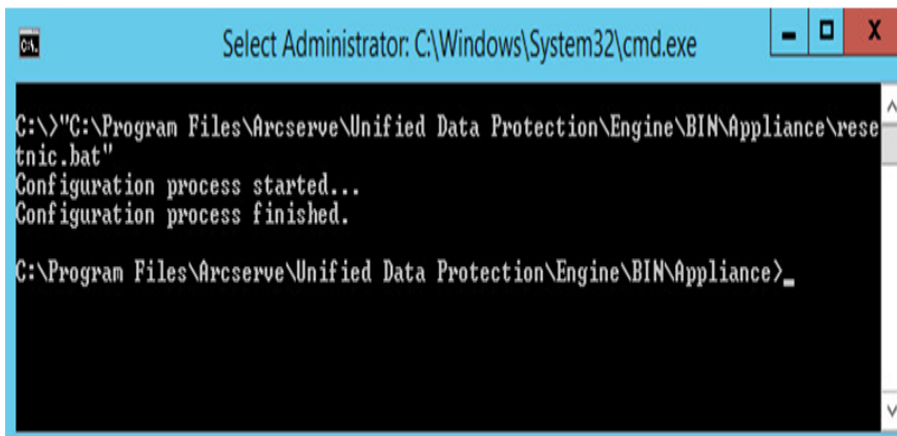
4. 確認ダイアログ ボックスで [[はい]] をクリックし、ルータを無効にして設定を削除します。
5. アプライアンス サーバのノードを右クリックし、[[レーティングとリモート アクセスの構成と有効化]] を選択します。

[[レーティングとリモート アクセス サーバーのセットアップ ウィザード]] が表示されます。

6. [[キャンセル]] をクリックし、Windows コマンド プロンプト ウィンドウを開きます。
7. 以下のコマンドを実行します。

```
C:\>\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat
```

設定が完了し、以下のメッセージが表示されます。

A screenshot of a Windows Command Prompt window titled "Select Administrator: C:\Windows\System32\cmd.exe". The window shows the execution of the command "C:\>"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat". The output of the command is "Configuration process started..." followed by "Configuration process finished." The prompt then shows "C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>\_".

```
C:\>"C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance\resetnic.bat"
Configuration process started...
Configuration process finished.

C:\Program Files\Arcserve\Unified Data Protection\Engine\BIN\Appliance>_
```

正しく機能していることを確認するには、Hyper-V マネージャで Linux バックアップ サーバにログインし、イントラネット上の特定のコンピュータに対して IP アドレスを ping します。失敗した場合は、確認し、この手順を繰り返します。

## ゲートウェイとしての UDP アプライアンスの設定

Arcserve UDP アプライアンスをゲートウェイとして設定 できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP アプライアンスから Arcserve UDP コンソールをアンインストールします。
2. Arcserve UDP コンソールから、**[リソース]**タブをクリックします。
3. Arcserve UDP コンソールの左 ペインで、**[インフラストラクチャ]**に移動して、**[サイト]**をクリックします。
4. **[サイトの追加]**をクリックします。
5. **[サイトの追加]**ウィザードの手 順に従って、Arcserve UDP アプライアンス上に Arcserve UDP リモート 管理 ゲートウェイをインストールします。

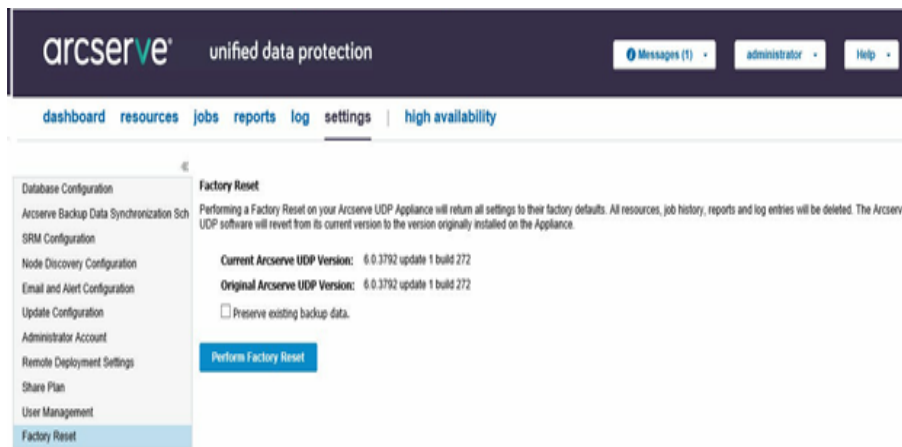
**注:** Arcserve UDP アプライアンス上に Arcserve UDP リモート 管理 ゲートウェイをインストールした後に、Arcserve UDP アプライアンス ウィザードで **[ウィザードの起動]**をクリックしても、Arcserve UDP コンソールは起動しません。ブラウザに Arcserve UDP コンソールの URL を直接入力すると、Arcserve UDP コンソールにアクセスできます。

## 環境設定の消去およびアプライアンスファクトリリセットの適用

ファクトリリセットを使用して、Arcserve UDP アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。ファクトリリセットは Arcserve UDP コンソールから適用できます。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールの **設定** タブで **ファクトリリセット** をクリックします。



デフォルトでは、すべてのバックアップ データが削除されます。

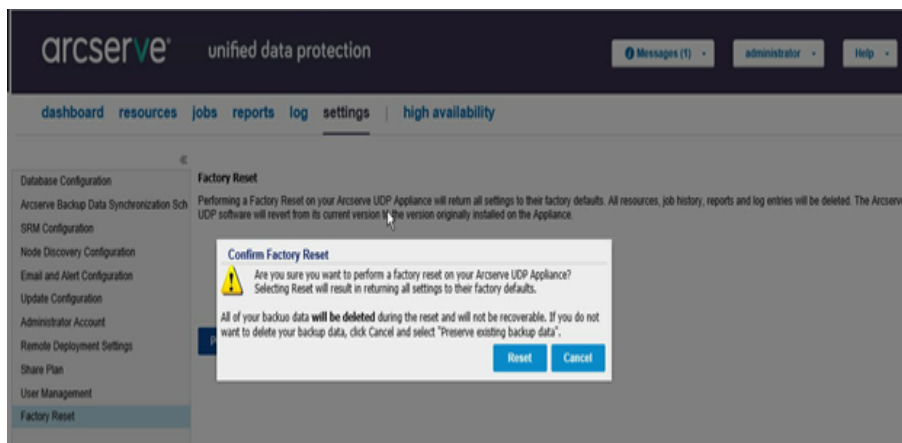
**注:**

Arcserve UDP には、**既存のバックアップ データを保持** オプションが用意されており、既存のデータストアを保存することができます。

- ◆ **既存のバックアップ データを保持** オプションを選択した場合、C:\ volume のみが再構築されます。X:\ volume および Y:\ volume のデータは変更されないままになります。
- ◆ **既存のバックアップ データを保持** オプションを選択しない場合、C:\、X:\、Y:\ の各ボリュームのすべてのデータが再構築されます。

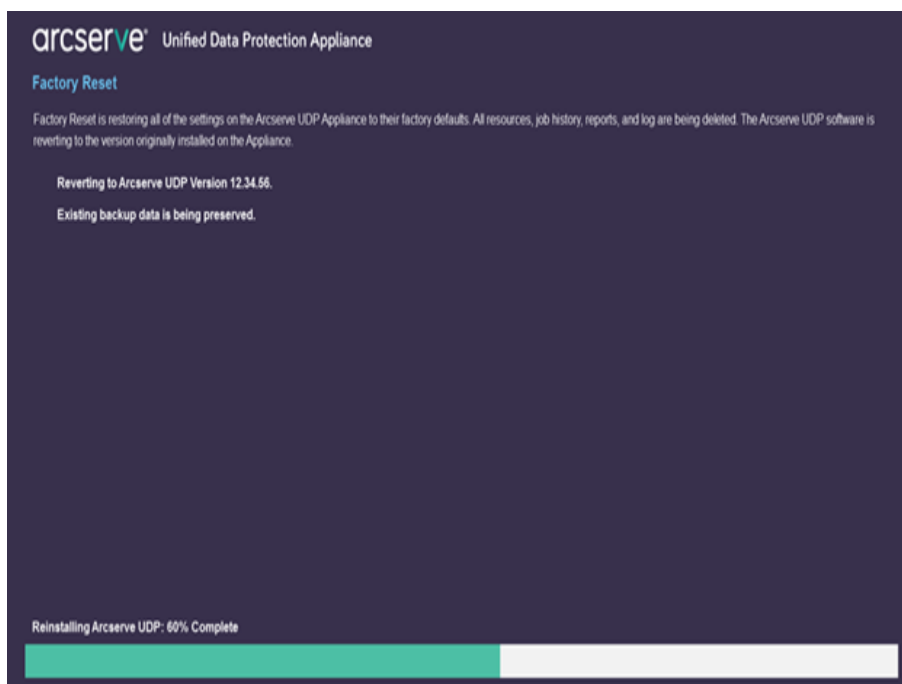
2. **ファクトリリセットを実行** をクリックします。

確認のダイアログ ボックスが表示されます。



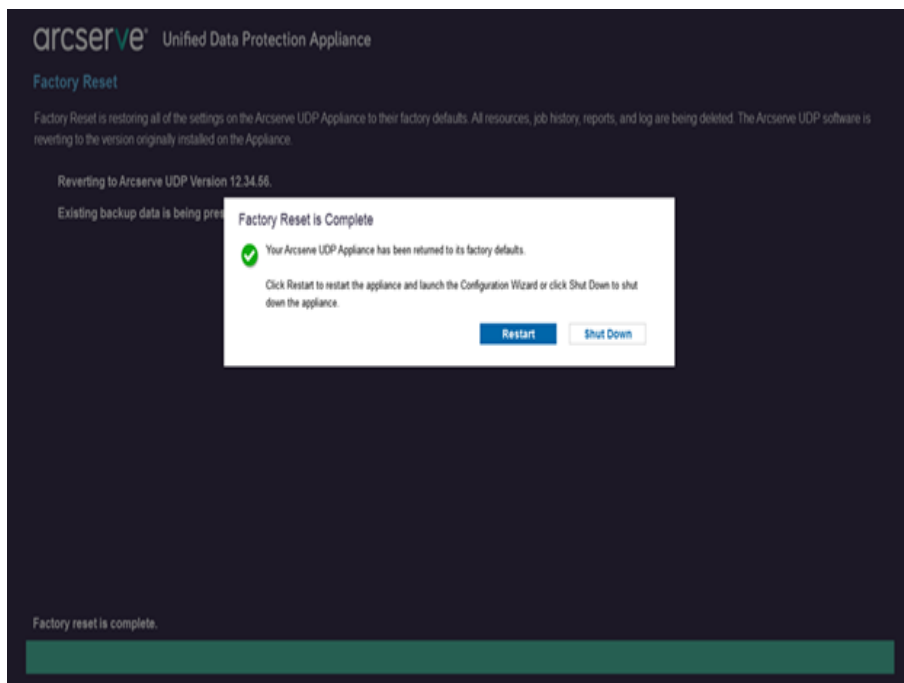
3. 確認のダイアログボックスで、[リセット]をクリックすると、ファクトリリセットが開始されます。

アプライアンスマシンが再起動され、ファクトリリセットが以下に表示されるとおりに実行されます。



ファクトリリセットの完了により、確認のダイアログボックスが表示されます。

4. 確認ダイアログ ボックスで、以下のいずれかのオプションを実行します。
  - ◆ **[再起動]**をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - ◆ **[シャット ダウン]**をクリックしてアプライアンスを閉じます。



## ブート オプションを使用した Arcserve UDP ファクトリリセットの適用

UDP ファクトリリセットは、UDP アプライアンスのブート メニューから適用することもできます。UDP ファクトリリセットを使用して、Arcserve UDP アプライアンスをクリーンな未設定の状態に戻すことができます。

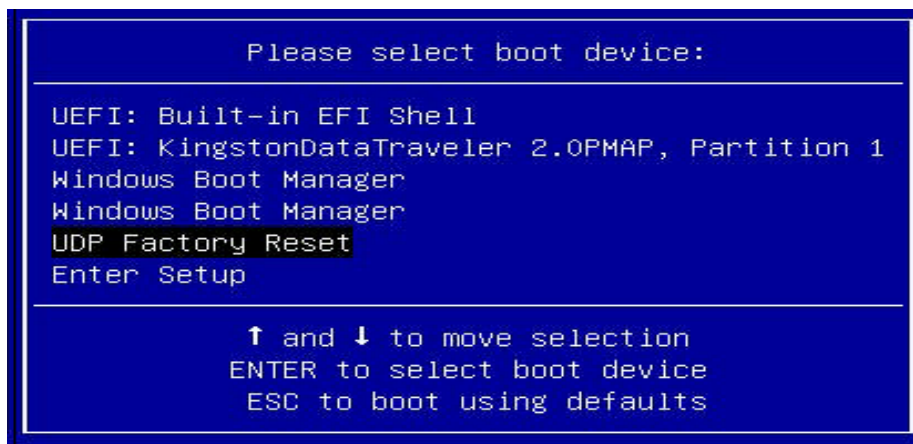
注：UDP ファクトリリセットの実行中に、バックアップ データを保持するオプションも選択できます。

以下の手順に従います。

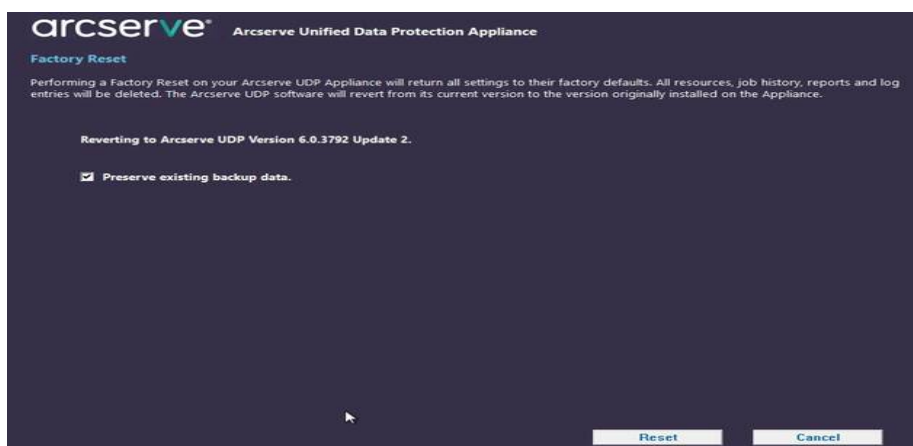
1. ブート メニューを起動するには、F11 キーを押します。



2. ブート オプションの UDP ファクトリリセットを選択します。



ファクトリリセットに関するページが表示されます。



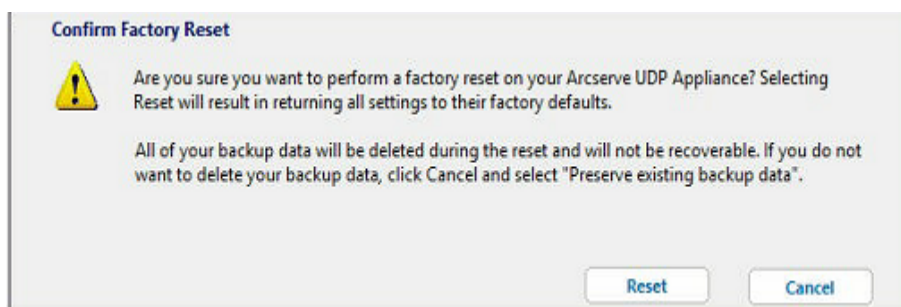
- デフォルトで、**既存のバックアップデータを保持** オプションが選択されています。元 のオペレーティング システムの C:\ ボリュームのみが再構築されます。X:\ ボリュームおよび Y:\ ボリュームのデータは変更されな

までです。

- [既存のバックアップデータを保持]オプションの選択をオフにすると、元のオペレーティングシステムの C:\、X:\、Y:\ の各ボリューム上のすべてのデータが再構築されます。

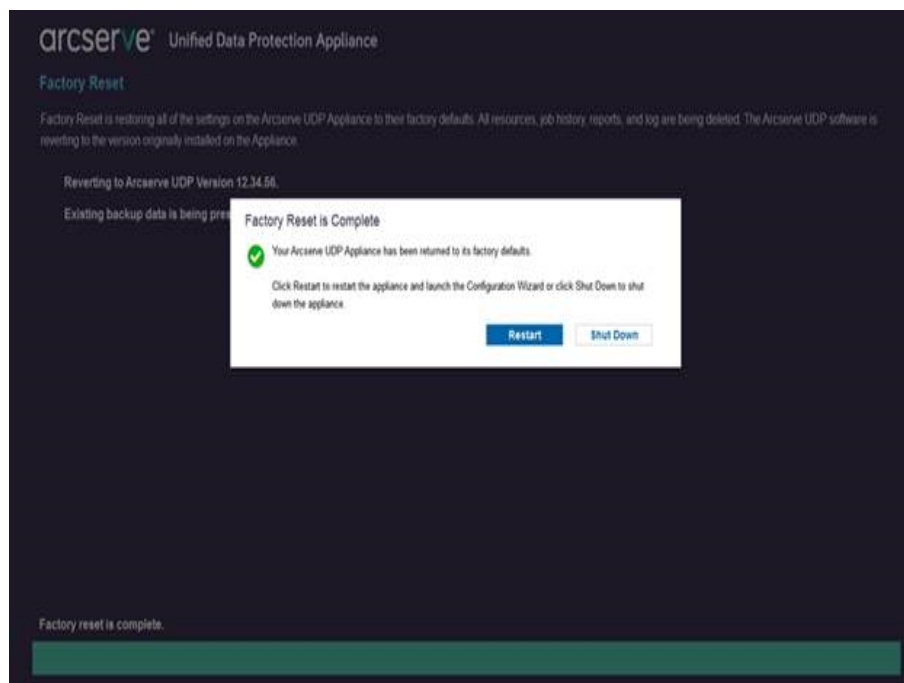
3. [リセット]をクリックします。

確認のダイアログボックスが表示されます。



[キャンセル]をクリックすると、アプライアンスユニットを再起動できます。

4. ファクトリリセットが完了した後、以下のいずれかの操作を実行できます。
  - ◆ [再起動]をクリックしてアプライアンスを再起動します。
  - ◆ [シャットダウン]をクリックしてアプライアンスを閉じます。



## Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP の登録

Arcserve UDP アプライアンス上の Arcserve UDP コンソールから Arcserve UDP を登録することができます。

**重要:** Arcserve では、ノード名、IP アドレス、ログイン認証情報、ドメイン名、ネットワーク名など、個人または会社の重要な情報は収集されません。

以下の手順に従います。

1. Arcserve UDP コンソールで、[ヘルプ]- [製品向上プログラム]をクリックします。

[Arcserve 製品向上プログラム]ダイアログ ボックスが表示されます。

2. [Arcserve 製品向上プログラムに参加する]チェック ボックスを選択します。
3. 以下の詳細を指定します。

- ◆ **名前:** 名前を指定します。
- ◆ **会社名:** 会社名を指定します。
- ◆ **電話番号:** 電話番号を以下の形式で指定します:

国コード - 電話番号。例: 000-1122334455

- ◆ **電子メールアドレス:** 電子メールアドレスを指定します。

**重要:** これは必須フィールドです。確認用電子メールは、このフィールドに指定した電子メールアドレスに送信されます。

- ◆ **フルフィルメント番号:** フルフィルメント番号を指定します。

**注:** Arcserve UDP のダウンロード時に受信した電子メールを参照してください。

4. [確認用電子メールの送信]をクリックします。

確認用電子メールが、[Arcserve 製品向上プログラム]ダイアログ ボックスに入力した電子メールアドレスに送信されます。

5. 電子メールのアカウントにログインし、受信した電子メールを開きます。
6. 電子メールに表示されている確認用リンクをクリックします。

Arcserve UDP が正常に登録されました。



登録した後、[参加のキャンセル]ボタンが有効化されます。登録をキャンセルするには、[参加のキャンセル]をクリックします。

注：電子メールアドレスを更新する場合は、再度登録する必要があります。再度登録するには、このトピックの前述の手順を実行します。

---

## 第 5 章: バックアッププランの作成

UDP アプライアンスを使用して、Windows、Linux、および仮想マシン用のバックアッププランを作成できます。テープデバイスにデータを書き込み、仮想スタンバイマシンを作成することもできます。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">Linux ノード用のバックアッププランの作成</a> .....	107
<a href="#">テープデバイスへのバックアッププランの作成</a> .....	108
<a href="#">アプライアンス上仮想スタンバイプランの作成</a> .....	109

## Linux ノード用のバックアッププランの作成

アプライアンスコンソールから Linux ノードをバックアップできます。Linux バックアップサーバはすでにコンソールに追加されています。

以下の手順に従います。

1. アプライアンスコンソールを開きます。
2. [ソース]- [プラン]- [すべてのプラン]をクリックします。
3. Linux バックアッププランを作成します。
4. [ソース]、[デスティネーション]、[スケジュール]、[拡張]の設定を指定します。

**注:** 各環境設定の詳細については、「ソリューションガイド」の「Linux バックアッププランを作成する方法」を参照してください。

5. バックアッププランを実行します。

## テープ デバイスへのバックアッププランの作成

UDP アプライアンスには、テープ デバイスにデータを書き込む機能があります。通常、ソース データは、UDP バックアップ プランを使用してデータ ストアに保存されている復旧ポイントで、デスティネーションはテープ デバイスです。Arcserve Backup マネージャを使用して、テープへのバックアップ ジョブを管理する必要があります。

以下のプロセスの概要は、UDP アプライアンスを使用してテープ デバイスに書き込む方法を理解するのに役立ちます。

### 1. テープ デバイスを UDP アプライアンスに接続します。

UDP アプライアンスには、テープ デバイスを接続するためのポートが背面パネルに備わっています。テープ デバイスを接続すると、UDP アプライアンスは自動的にテープ デバイスを識別します。

### 2. バックアップ マネージャを使用して、テープ デバイスを設定します。

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加します。バックアップ マネージャは、Arcserve Backup を管理するためのインターフェースです。テープ デバイスをバックアップ マネージャに追加した後、デバイスを設定します。

**注:** デバイスの設定および管理の詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「デバイスおよびメディアの管理」を参照してください。

### 3. UDP コンソールを使用して、1 つ以上のバックアップ ジョブを正常に完了します。

テープ デバイスに書き込み可能な正常なバックアップが少なくとも 1 つ存在している必要があります。データをバックアップするには、UDP コンソールを使用してプランを作成し、データ ストアにバックアップします。

**注:** 別のノード用のバックアッププランの作成に関する詳細については、「ソリューション ガイド」の「データを保護するプランの作成」を参照してください。

### 4. バックアップ マネージャからのテープへのバックアップ ジョブの開始

バックアップ マネージャを開き、テープ デバイスにデータをバックアップするプランを作成します。ソース データは UDP バックアップ プランのデスティネーションで、デスティネーションはテープ デバイスです。

**注:** テープへのバックアッププランの作成に関する詳細については、「Arcserve Backup for Windows 管理者ガイド」の「D2D/UDP データのバックアップおよび回復」を参照してください。

## アプライアンス上 仮想スタンバイ プランの作成

アプライアンスには、仮想スタンバイ マシンとして動作する機能があります。この機能は、以下アプライアンスシリーズに備わっています。

- Arcserve UDP アプライアンス 7200V
- Arcserve UDP アプライアンス 7300V
- Arcserve UDP アプライアンス 7400V
- Arcserve UDP アプライアンス 7500V
- Arcserve UDP アプライアンス 7600V
- Arcserve UDP アプライアンス 8100
- Arcserve UDP アプライアンス 8200
- Arcserve UDP アプライアンス 8300
- Arcserve UDP アプライアンス 8400

**前提条件:** バックアップ プランが正常に実行されている必要があります。

以下の手順に従います。

1. アプライアンス コンソールを開きます。
2. プランに移動して、バックアップ プランを変更します。
3. 仮想スタンバイ タスクを追加します。
4. ソース、デスティネーション、仮想 マシンの環境設定を更新します。

**注:** それぞれの環境設定の詳細については、「ソリューション ガイド」の「仮想スタンバイ プランを作成する方法」を参照してください。

5. プランを保存して実行します。

---

## 第 6 章: Arcserve UDP アプライアンスの修復

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">ハードドライブの取り外しおよび交換</a> .....	111
---	-----

## ハードドライブの取り外しおよび交換

Arcserve UDP アプライアンスを使用すると、ハードドライブの1つに障害が発生した場合、残りのドライブがすぐに起動し、データは失われずにアプライアンスが引き続き正常に動作します。そのため、複数のハードドライブの障害に関連する問題に対して防御するには、データが失われる可能性を最小限に抑えるためにできる限り早くハードドライブを置き換える必要があります。

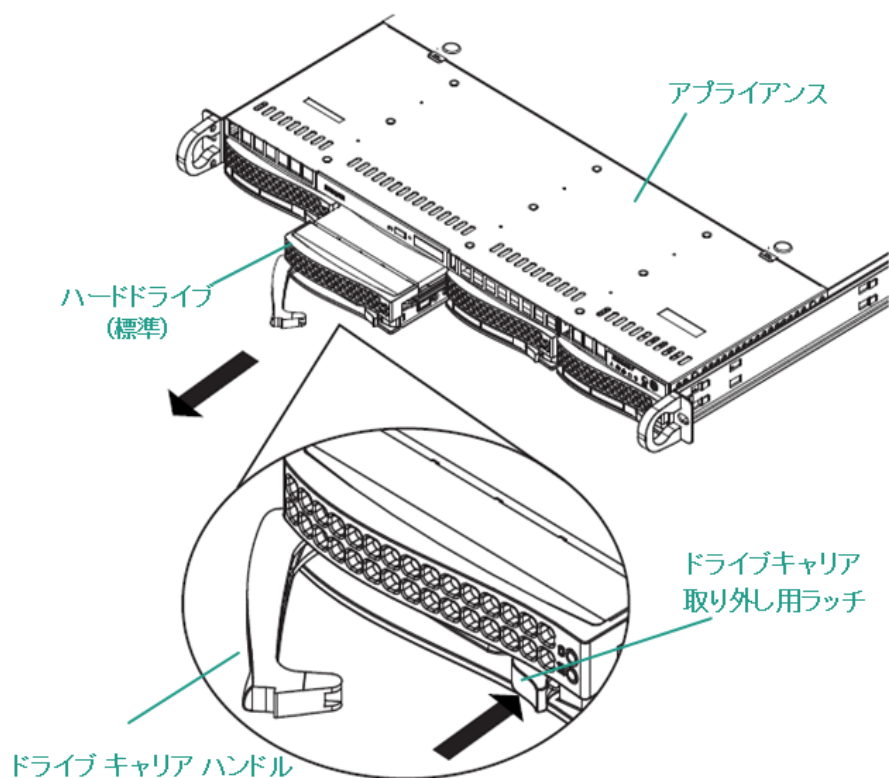
Arcserve UDP アプライアンスには、4つのハードドライブキャリアが含まれており、左から右に0、1、2、3とラベルが付けられています。一度に複数のハードドライブを交換する場合、各ドライブキャリアでどのドライブが交換されたかがわかるように、交換したハードドライブにラベルを付ける必要があります。アプライアンスから取り外したハードドライブにもラベルを付け、どのドライブキャリアによって占有されていたかがわかるようにします。

**重要:** ハードドライブは静電気に敏感なデバイスであり、損傷しやすいため、ハードドライブを扱う場合は適切な保護対策を講じてください。

- 静電気の放電を防ぐためにリストトラップを着用してください。
- 交換用ハードディスクを帯電防止のパッケージ袋から取り出す前に、接地された物体に触れるようにします。
- ハードドライブを扱う際は常に端のみを持つようにし、底面の露出している部品には一切触れないでください。

以下の手順に従います。

1. ドライブホルダーにアクセスするには、まずフェイスプレートを取り外す必要があります。
  - a. フェイスプレートのロックを解除します。
  - b. 取り外し用つまみを押してフェイスプレートピンを格納します。
  - c. フェイスプレートを慎重に取り外します(両手を使用)。
2. ドライブキャリアの取り外し用ラッチを押します。これにより、ドライブキャリアハンドルが展開されます。



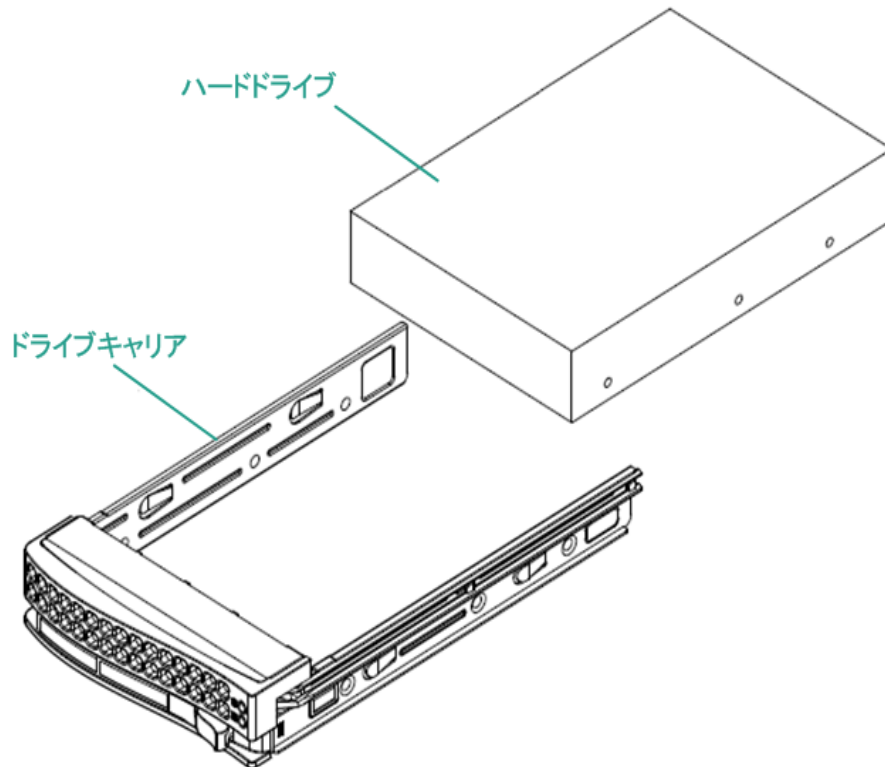
3. ハンドルを使用して、アプライアンスの前面からドライブ キャリアを引き出します。ハードドライブは、アプライアンスに対する取り付け/取り外しを簡単に行うことができるよう、ドライブ キャリアにマウントされています。これらのキャリアは、ドライブ ベイに適切な換気が行われるようにするのも役立ちます。

**重要:** 短時間の場合を除き(ハードドライブの交換など)、ドライブ キャリアが完全に設置されていない状態でアプライアンス稼働させることはしないでください。

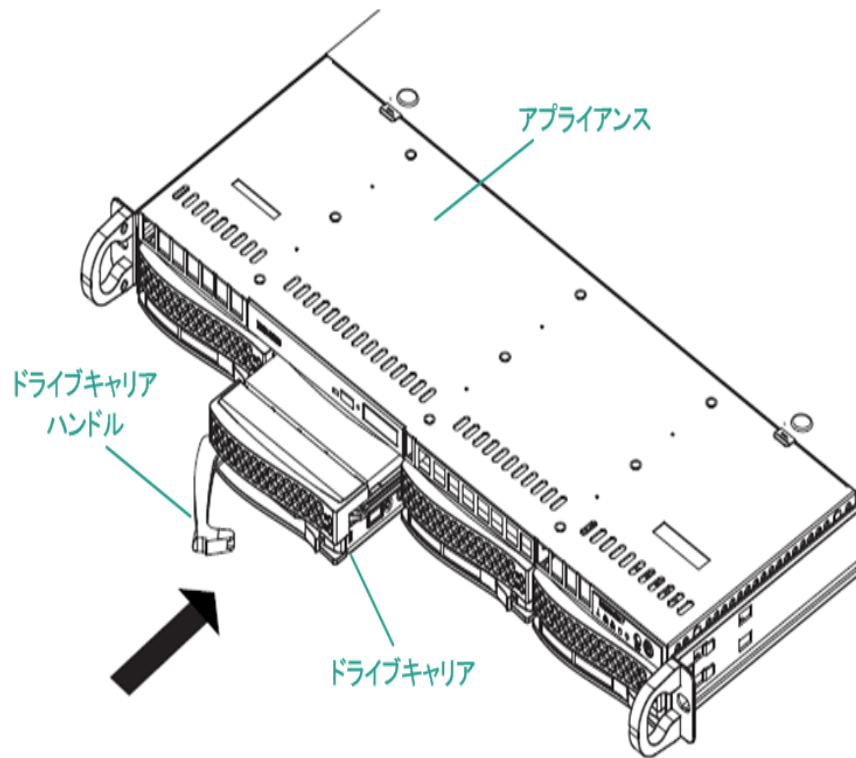
4. 古いハードドライブをドライブ キャリアから取り外し、新しいハードドライブを設置します。その際、交換用ハードドライブが正しい向きであるかに注意



し、ラベルが上部、部品が下部にきていることを確認します。



5. ドライブトレイがアプライアンスに完全に設置されるまでスライドし、ドライブキャリアハンドルを閉じて固定します。



6. ドライブを返却する場合は、返却に関する指示を Arcserve サポートから取得します。



---

## 第 7 章: 安全に関する注意事項

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">一般的な安全に関する注意事項</a> .....	117
<a href="#">電気に関する安全のための注意事項</a> .....	119
<a href="#">FCC コンプライアンス</a> .....	120
<a href="#">静電気放電 (ESD) に関する注意事項</a> .....	121

## 一般的な安全に関する注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある一般的な安全に関する注意事項です。

- EMI クラス A 機器 (商用機器) の場合、本装置は家庭用ではなく、商用機器 (A) として EMC (Electromagnetic Compatibility) Registration に登録されています。販売者およびユーザは、この点において注意する必要があります。

A급 기기 (업무용 방송 통신기자재)

이 기기는 업무용 (A급) 으로 전자파 적합 기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정 외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다

**注:** この注意事項は韓国にのみ適用されます。詳細については、Arcserve サポート (<https://www.arcserve.com/support>) までお問い合わせいただくか、0079885215375 (韓国) までお電話ください。

- アプライアンスに同梱されている内容をチェックして破損がないことを確認します。破損の証拠がある場合は、すべてのパッケージ資材を保持して Arcserve サポートにご連絡ください (<https://www.arcserve.com/support>)。
- アプライアンスを格納するラックユニットの適切な場所を決定します。これは、よく換気され、ごみなどがなく清潔かつ無塵の領域に配置する必要があります。熱、電氣的ノイズ、電磁場が生じる場所は避けてください。
- また、接地された電源コンセントが少なくとも 1 つある場所の近くに配置する必要があります。モデルによっては、アプライアンスに 1 つの電源または冗長電源装置のいずれかが含まれており、2 つの接地されたコンセントが必要になります。
- アプライアンスは、限られた場所でのみ使用するものです。
  - 場所に適用される制限の理由および従うべき注意事項について指示されているユーザまたはサービス担当者からアクセスを得ることができます。
  - アクセスするには、ツールまたはロックおよびキー、セキュリティの別の手段によって与えられ、その場所に責任を持つ担当者によって制御されます。
- アプライアンスの上部のカバーと、アプライアンスから取り外されたすべての部品をテーブルの上に置き、誤って踏まないようにします。

- アプライアンスを使用して作業する際は、ネクタイや袖のボタンを留めていないシャツなどゆるやかな服装は避けてください。そのような服装は、電子回路に触れたり、冷却ファンに巻き込まれたりする可能性があります。
- 宝飾品や金属のものは、金属導体であり、プリント基板 (PCB) または電流が流れている場所に接触すると、ショートしたり損傷を生じさせたりする可能性があるため、身に付けしないでください。
- アプライアンスの内部にアクセスし、すべての接続が行われたことを確認したら、アプライアンスを閉じて、留めねじでラックユニットに固定します。

## 電気に関する安全のための注意事項

以下は、自分自身を損害から保護し、アプライアンスを障害または誤動作から保護するために従う必要がある電気に関する安全のための注意事項です。

- アプライアンス上の電源オン/オフのスイッチの場所と、部屋の緊急電源遮断スイッチ、切断スイッチ、電源コンセントの場所を確認します。電氣的事故が発生した場合は、アプライアンスから電力を素早く切断することができます。
- 高電圧の部品を扱う場合は、1人で作業しないでください。
- システムの主要部品(サーバボード、メモリモジュール、DVD-ROM、フロッピードライブなど)を取り外したり配置したりする場合は、必ずアプライアンスから電力を切断する必要があります(ホットスワップ可能なドライブには必要ありません)。電力を切断する場合は、最初にオペレーティングシステムでアプライアンスの電源を切り、次にアプライアンスのすべての電源モジュールから電源コードのプラグを抜きます。
- 露出している電子回路の周りで作業する場合、電源切断の制御に慣れている別の担当者が待機し、必要に応じて電源スイッチをオフにする必要があります。
- 電源がオンになっている電子機器を扱う場合は、片手のみを使用します。これは、完全に閉じられた回路を防ぐためです。完全な回路は電気ショックを引き起こす可能性があります。金属のツールを使用する場合、電子部品や回路基板に接触すると簡単に損傷を与える可能性があるため、特に注意します。
- 感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。代わりに、電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。
- 電源装置の電源コードには、アース端子付きプラグが含まれている必要があります。アース接地用コンセントに接続する必要があります。
- サーバボードのバッテリー: 注意: オンボードバッテリーの上下を逆に設置すると、極性が逆になり、爆発の危険があります。このバッテリーは、メーカーによって推奨されるのと同じ種類または同等の種類でのみ置き換える必要があります。メーカーの指示に従って使用済みバッテリーを破棄します。
- DVD-ROMのレーザー: 注意 - このサーバには、DVD-ROMドライブが装備されている場合があります。レーザービームへの直接の露出および有害な放射線被ばくを回避するため、筐体を開いたり、通常とは異なる方法でユニットを使用したりしないでください。

## FCC コンプライアンス

このアプライアンスは、FCC 規則の Part 15 に準拠しています。以下の条件に従って運用される必要があります。

- このアプライアンスは、有害な干渉を引き起こしません
- このアプライアンスは、受け取った干渉を受け入れる必要があります(意図しない操作を発生させる可能性がある干渉を含む)

**注:** この機器はテストされ、クラス A のデジタル機器の制限に従っており、FCC 規則の Part 15 に準拠していることが検証されています。これらの制限は、機器が商用目的で運用された場合に有害な干渉に対して適切な保護を提供するように設計されています。この機器は、電磁波を発生および利用し、外部に放射することがあり、正式な手順に従って設置および使用されない場合は、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。住宅地域でこの機器を稼働させると、有害な干渉が発生する可能性があります。ユーザは自らの費用負担で干渉を是正する必要があります。



## 静電気放電(ESD)に関する注意事項

静電気放電(ESD)は、異なる電荷の2つの物体が互いに接触することによって生じます。静電気は、この電荷の違いを中和しようとして発生し、電子部品やプリント回路基板に損傷を与える可能性があります。ESDに敏感なデバイスには、サーバボード、マザーボード、PCIeカード、ドライブ、プロセッサ、メモ리카ードなどがあり、特殊な扱いが必要となります。接触する物体の電荷の違いを中和するための努力として、接触前に以下の注意事項に従い、機器をESDから保護します。

- 電気絶縁体として特別に設計されているゴムのマットを使用します。感電からの保護として静電気を軽減するために設計されたマットは使用しないでください。
- 静電気の放電を防ぐように設計されている接地されたリストストラップを使用します。
- 帯電または放電(ESD)を予防する洋服または手袋を使用します。
- すべての部品およびプリント回路基板(PCB)は、使用するまで静電気防止バッグに入れておきます。
- 基盤を静電気防止バッグから取り出す前に、接地されたメタルオブジェクトに触れます。
- 部品またはPCBが洋服に触れないようにします。触れた場合は、リストストラップを装着していても静電気を帯びる可能性があります。
- ボードを扱う際は、その端のみに触れるようにします。その部品、周辺チップ、メモリモジュール、接点に触れないでください。
- チップまたはモジュールを扱う場合、そのピンに触れないようにします。
- サーバボードおよび周辺機器を使用しない場合は静電気防止バッグに戻します。
- 接地目的のため、アプライアンスが、電源、ケース、マウントファスナー、サーバボード間で優れた伝導性を提供することを確認します。

---

## 第 8 章: IPMI パスワードの変更

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">IPMI パスワードを変更する方法</a> .....	123
---	-----

## IPMI パスワードを変更する方法

IPMI パスワードを変更する前に、BIOS セットアップ画面にアクセスして IP アドレスを取得する必要があります。

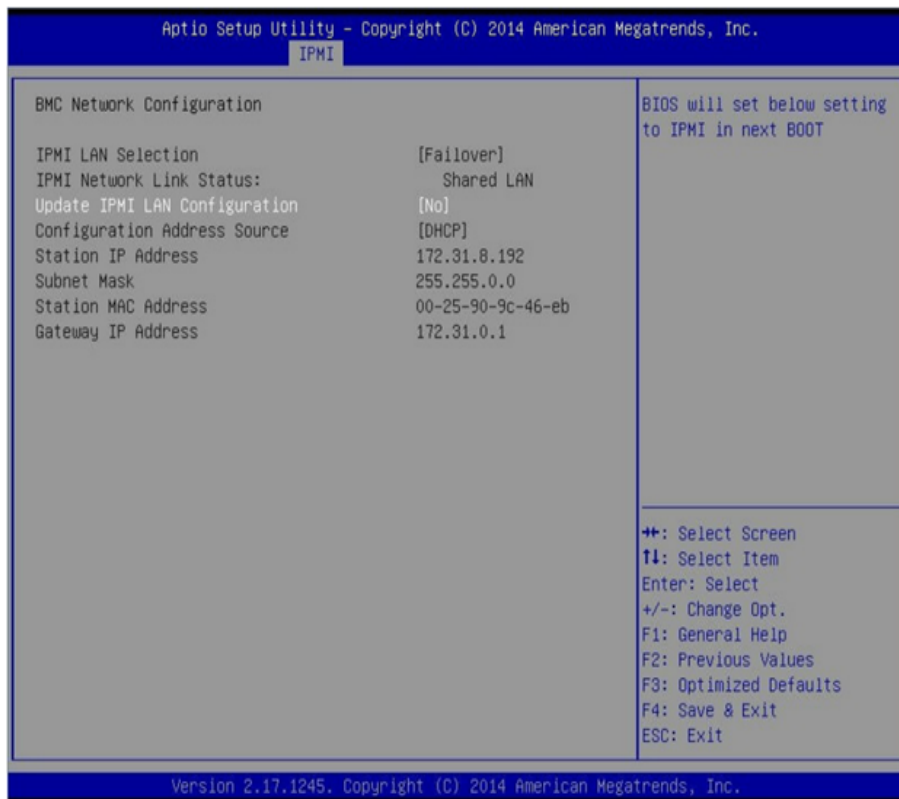
以下の手順に従います。

1. システムを起動すると、ブート画面が表示されます。この画面で、Delete キーを押します。BIOS セットアップ画面が表示されます。

**注:** 移動するには、矢印キーを使用し、Enter キーを押します。前の画面に戻るには、Escape キーを押します。

2. BIOS メイン画面の上部で IPMI タブを選択します。

**注:** デフォルトでは、環境設定アドレスソースは DHCP に設定されています。



3. IP アドレスが正しいことを確認します。サーバが同じネットワーク上にある場合のみ、Web ブラウザを使用して、IPMI インターフェースに接続することができます。
4. ステーション IP アドレスを記録します。

5. ステーション IP アドレスを Web ブラウザに入力します。

IPMI ポート経由でリモートサーバに接続した後、IPMI ログイン画面が表示されます。

The image shows a web browser window with the title "Please Login". It contains two input fields: "Username" and "Password". Below the "Password" field is a button labeled "login".

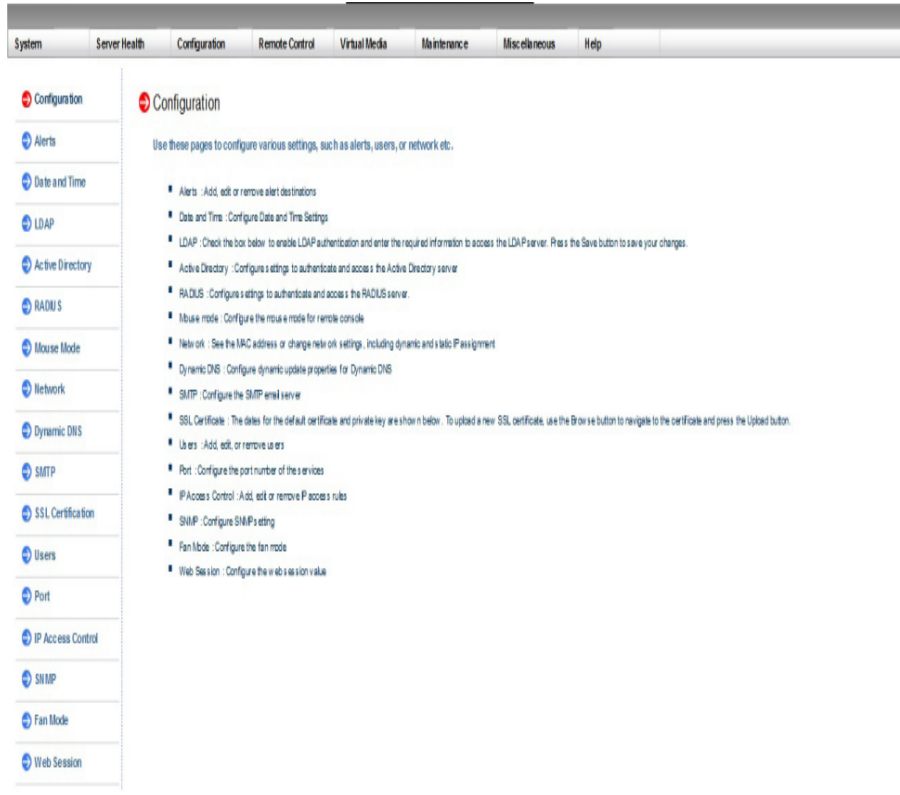
6. [ユーザ名]フィールドにユーザ名を入力します。(デフォルトはADMIN)
7. [パスワード]フィールドにパスワードを入力します。(デフォルトはARCADMIN)
8. ホームページが表示されます(IPMI メイン画面)。

The screenshot shows the IPMI web interface. At the top, there is a navigation menu with tabs: System, Server Health, Configuration, Remote Control, Virtual Media, Maintenance, Miscellaneous, and Help. The "System" tab is selected. On the left, there is a sidebar with links for System, FRU Reading, and Hardware Information. The main content area is titled "Summary" and displays various system information:

- Firmware Revision: 01.70
- Firmware Build Time: 10/03/2014
- BIOS Version: 1.0a
- BIOS Build Time: 09/29/2014
- IP address: XXX XXX XXXX
- BMC MAC address: 00:25:90:9c:47:a8
- System LAN1 MAC address: 00:25:90:9c:5f:90
- System LAN2 MAC address: 00:25:90:9c:5f:91
- System LAN3 MAC address: 00:25:90:9c:5f:92
- System LAN4 MAC address: 00:25:90:9c:5f:93

Below the summary is a "Remote Console Preview" section with a "Refresh Preview Image" button and a terminal window showing a boot sequence. At the bottom, there is a "Power Control via IPMI" section with a "Host is currently on" status and buttons for "Power On", "Power Down", and "Reset".

9. 上部バーから [環境設定]オプションをクリックします。[環境設定]画面が表示されます。



10. [環境設定] サイドバーで [ユーザ] オプションをクリックします。
11. ユーザ( ADMN ) をユーザ リストから選択します。

12. [ユーザの変更]をクリックすると、[ユーザの変更]画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Modify User' page in a web-based management console. The top navigation bar includes 'System', 'Server Health', 'Configuration', 'Remote Control', 'Virtual Media', 'Maintenance', 'Miscellaneous', and 'Help'. The left sidebar lists various configuration categories, with 'Users' selected. The main area contains a 'Modify User' form with the following elements:

- A text box with the instruction: "Enter the new information for the user below and press Modify. Press Cancel to return to the user list."
- A text input field for 'User Name'.
- A checked checkbox for 'Change Password'.
- Text input fields for 'Password' and 'Confirm Password'.
- A dropdown menu for 'Network Privileges'.
- 'Modify' and 'Cancel' buttons at the bottom.

13. ユーザ名を入力します。( ADMIN)
14. [パスワードの変更]チェックボックスを選択してパスワードを変更します。パスワードのフィールドが有効になります。
15. 新しいパスワードを入力し、確認します。
16. [変更]をクリックすると、変更が保存されます。IPMI パスワードが変更されます。



---

## 第 9 章: トラブルシューティング

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない</a> .....	129
<a href="#">別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードがレポートされる</a> .....	130
<a href="#">Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを取得できない</a> .....	132
<a href="#">アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン</a> .....	133



## Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない

### 現象

Arcserve UDP コンソールから Linux バックアップ サーバに接続しようとする、接続に失敗して赤色のマークが表示されます。

### 解決策

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できない場合、接続のトラブルシューティングを行って問題を特定することができます。

### 接続の問題のトラブルシューティングを行う方法

1. Hyper-V マネージャを起動し、Linux バックアップ サーバの仮想マシンに接続してログインします。
2. 以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

3. Linux バックアップ サーバに割り当てられた IP アドレスが 192.168.10.2 であることを確認します。確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
ifconfig
```

4. IP アドレスが 192.168.10.2 である場合は、Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。
5. IP アドレスが 192.168.10.2 でない場合は、「DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC) からのトラブルシューティング」の手順に従います。

### DHCP Microsoft 管理コンソール (MMC) からのトラブルシューティング

**重要:** DHCP サーバ サービスが、アプライアンス上で適切に実行されていることを確認します。

1. [サーバ マネージャ]- [ツール]- [DHCP] から DHCP MMC を起動します。
2. Linux サーバノード、IPV4、スコープを展開し、192.168.10.0 という名前のスコープがその下に存在することを確認します。
3. [アドレスのリース] を展開し、他のリースレコードの存在を削除します。
4. Linux バックアップ サーバにログインし、以下のコマンドを実行します。

```
service network restart
```

5. Arcserve UDP コンソールに移動し、接続しようとしている Linux バックアップ サーバノードを更新します。

Linux バックアップ サーバにコンソールから接続できるようになりました。

## 別のアプライアンスから UDP アプライアンスをバックアップすると重複するノードがレポートされる

### 現象

アプライアンス A からアプライアンス B をバックアップすると、アクティビティ ログに以下の警告メッセージが表示されます。

*"The following nodes are duplicated:Appliance\_B, Appliance\_A.As a result, they have the same agent identifier and may cause unexpected results.This duplicate node problem can be caused if the node was added using a different node name (such as the DNS name or IP address), or if some machines were set up by cloning from one to another."* ( 次のノードが重複しています: Appliance\_B、Appliance\_A。その結果、これらのノードに同じエージェント識別子が指定され、予期しない結果が生じる可能性があります。異なるノード名 ( DNS 名 や IP アドレスなど) を使用してノードが追加された場合や、別のマシンのクローンを作成してマシンがセットアップされた場合に、この重複ノードの問題が発生する可能性があります。)

**ケース 1: アプライアンス B が RPS としてアプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。**

例: アプライアンス B から、UDP ウィザードを使用してアプライアンスを設定し、  
[This appliance will function as an instance of Arcserve UDP Recovery Point Server managed by another Arcserve UDP console ( このアプライアンスは、別の Arcserve UDP コンソールで管理されている Arcserve UDP 復旧ポイント サーバのインスタンスとして機能します) ]を選択できます。

### 解決策

1. UDP コンソールの [RPS] ペインからアプライアンス B のノード内のデータストアを停止します。
2. アプライアンス B にログインし、[HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\CA\ARCserve Unified Data Protection\Engine] の下にあるノード ID のレジストリキーを削除します。
3. アプライアンス B のノードから Arcserve UDP エージェント Web サービスを再起動します。
4. アプライアンス B のノードから Arcserve UDP RPS データストアサービスを再起動します。
5. UDP コンソールから、[ノード]- [すべてのノード] ペインに移動して、アプライアンス B のノードを更新します。

6. [復旧ポイント サーバ] ペインに移動して、アプライアンス B のノードを更新します。
7. アプライアンス B の RPS に元のバックアップ先を設定して、既存のデータストアをインポートします。

**ケース 2: アプライアンス B がエージェント ノードとしてのみ、アプライアンス A の UDP コンソールに追加されます。**

たとえば、あるプランでは、アプライアンス A の UDP コンソール上にあるエージェントベースのバックアップ タスクによってアプライアンス B を保護します。

1. アプライアンス B にログインし、[HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Arcserve Unified Data Protection\Engine] の下にあるノード ID のレジストリキーを削除します。
2. アプライアンス B から Arcserve UDP エージェント サービスを再起動します。
3. UDP コンソールから、[ノード]- [すべてのノード] ペインに移動して、アプライアンス B からのノードを更新します。

## Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックス を取得できない

アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合、ネットワーク サービスを再起動した後に Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できません。この問題によって、Linux バックアップ サーバと UDP コンソールの間の通信に問題が発生します。通信の問題により、この Linux バックアップ サーバを使用して Linux ノードを保護することができなくなります。

### 現象

Linux バックアップ サーバのステータスが、UDP コンソール上で切断状態のままになります。[ノードの更新]を実行しても Linux バックアップ サーバは正常に更新されず、黄色の警告アイコンは緑色に変化しません。この問題は、アプライアンス サーバに静的 IP アドレスを設定した場合に、Linux バックアップ サーバがネットワーク DNS サフィックスを正しく取得できないために発生します。

### 解決策

この問題を解決するには、Linux マシンの file/etc/resolv.cfg を直接更新して正しい DNS サフィックスを追加します。

## アプライアンスのデフォルトのタイムゾーン

### 現象

デフォルトのタイムゾーンが、最初にアプライアンスの電源をオンにしたときに選択した地域に関係なく、(UTC-08:00) 太平洋時間(米国およびカナダ)になります。

### 解決策

この問題を解決するには、Arcserve Backup アプライアンス ウィザードで **編集**]-**日付と時間**]をクリックして、タイムゾーンを変更します。

---

## 第 10 章: 使用条件

この製品の一部には、サードパーティのソフトウェアプロバイダによって開発されたソフトウェアが含まれています。以下のセクションに、このサードパーティソフトウェアに関する情報を示します。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

---

<a href="#">putty</a> .....	135
-----------------------------	-----

## putty

この製品に含まれている「putty」コンポーネントの詳細を以下に示します。

コンポーネント名	putty
コンポーネントベンダ	Simon Tatham によって最初に開発されました。
コンポーネントバージョン	0.64
リーガルコメント	<a href="http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html">http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html</a>
プロジェクト名	Appliance Rhodium
コンポーネントタイプ	オープンソース
ソースコード URL	<a href="http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/">http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/</a>
必要なローカリゼーション	
必要なプラットフォーム	Windows 2012 R2
コンポーネント URL	<a href="http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/">http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/</a>

コンポーネントバージョンURL	<a href="http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/">http://the.earth.li/~sgtatham/putty/0.64/x86/</a>
説明	アプライアンスマシン上で、putty.exeを使用してLinuxバックアップサーバと通信し、システムロケールとUDP Linuxロケールを変更します。
機能	アプライアンス
ライセンステキスト	<p><a href="http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html">http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html</a></p> <p>PuTTYの著作権はSimon Tathamが有しています(1997-2015)。</p> <p>一部の著作権は、Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、Christopher Staite、およびCORE SDI S.A.が有しています。</p> <p>このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスおよび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は次の条件を前提としています。</p> <p>上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および実質的な部分のすべてに含めてください。</p> <p>本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。Simon Tathamは、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。</p>
著作権テキスト	<p><a href="http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html">http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html</a></p> <p>PuTTYの著作権はSimon Tathamが有しています(1997-2015)。</p> <p>一部の著作権は、Robert de Bath、Joris van Rantwijk、Delian Delchev、Andreas Schultz、Jeroen Massar、Wez Furlong、Nicolas Barry、Justin Bradford、Ben Harris、Malcolm Smith、Ahmad Khalifa、Markus Kuhn、Colin Watson、Christopher Staite、およびCORE SDI S.A.が有しています。</p> <p>このソフトウェアおよび関連する文書ファイル(以下「ソフトウェア」)を入手したすべての人は、このソフトウェアを制限なしに使用することが無償で許諾されています。これには、ソフトウェアの使用、複製、変更、結合、発行、配布、サブライセンスおよび販売についての制限なしの権利が含まれます。また、このソフトウェアを提供する相手に対してそのような行為を許可することも許諾されています。この許諾は次の条件を前提としています。</p>



	<p>上記の著作権に関する通知およびこの許諾通知は、ソフトウェアの複製物および実質的な部分のすべてに含めてください。</p> <p>本ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。ここでいう保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含みますが、それに限定されるものではありません。Simon Tatham は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いによって生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。</p>
ライセンス URL	
使用目的	アプライアンスマシン上で、putty.exe を使用して Linux バックアップ サーバと通信し、システムロケールと UDP Linux ロケールを変更します。
必要な変更	x
カスタマイザリへの配布の種類	